

文法 活用のない自立語①

◆活用のない自立語の種類

- (1) 名詞……生き物や物・事の名前を表す。「が・は・も」などを付けて主語になる。「体言」ともいう。普通名詞・固有名詞・数詞・形式名詞・代名詞がある。
- (2) 副詞……主に用言(動詞・形容詞・形容動詞)を修飾し、様子・状態・程度を表す。状態の副詞・程度の副詞・呼応の副詞がある。
- 例 ゆっくり(状態)・かなり(程度)・決して(呼応)
- (3) 連体詞……あとに体言が付いて、連体修飾語になる。
- 例 あの・その・大きな
- (4) 接続詞……前後の文や語をつないで、接続語になる。
- 例 しかし・だから・そして・あるいは・つまり・さて
- (5) 感動詞……応答や呼びかけ、感動などを表し、独立語になる。
- 例 あら・おや・こんには・おい

1 次の名詞の種類をあとのア〜ウから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 馬 (2) あなた (3) 三番 (4) 日本
- (5) 気持ち (6) こちら (7) 夏目漱石 (8) 法律
- ア 普通名詞 イ 固有名詞 ウ 数詞
- エ 形式名詞 オ 代名詞

- (1) () (2) () (3) () (4) ()
- (5) () (6) () (7) () (8) ()

2 次の——線部の副詞の種類をあとのア〜ウから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 川がさらさら流れる。
- (2) もし空が飛べたら、楽しいだろうに。
- (3) もっと速く走れ。
- (4) とても広い家だ。

ア 状態の副詞 イ 程度の副詞 ウ 呼応の副詞

- (1) () (2) () (3) () (4) ()

3 次の——線部が連体詞であるものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 庭で小さなネコが鳴いている。
- イ 掃除をさっと終わらせる。
- ウ 世界のあらゆる場所で見られる。
- エ これはほくの本だ。
- オ 急に大きい音がして驚いた。
- カ 我が母校は創立百周年を迎えた。

4 次の——線部が接続詞であるものをすべて選び、記号で答えなさい。

昨日は、雨が降っていた。でも、約束があったので出かけた。むしろ、心配なのは天気よりも、約束の相手が来るかどうかだった。というのは、彼女には何度も約束を破られているからだ。そこで、今日もちゃんと来るかどうか心配だった。ところが、彼女はちゃんと来た。しかも、彼女のほうが先に着いていた。こんなことは初めてなので、ほくは驚いてしまった。

- () () () () () () () ()

5 次の——線部が感動詞であるものをすべて選び、記号で答えなさい。

ああ、さわやかな朝だ。あれ、こっちに走ってくるのはだれだろう。「おはよう、山田君。」走ってきたのは、転校生の川野君だった。「はい。おはよう。」川野君は、空を指さして言った。「山田君、あれは何だろう。」ほくは、指さしたほうを見た。「うわっ、何だ。」大きな飛行船だった。

- () () () () () () () ()

7 表現

例題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

場面は一九六〇年ころ。「私」は組み立て式の鉱石ラジオ(アンテナの受けた電波を電源とする)を初めて作った。

よし、今晚はいけるかもしれない。私は宇宙船の船長のような気分、慎重にかつ周到にアンテナを動かした。
やがてほんの一瞬だけ、雑音のはさまに音楽のようなものが聞こえたような気がした。

あ、ああ、聞こえた!

何の電源も必要とせず、ただ空中の電波それ自体をエネルギーとして、このいい加減な剥き出しの機械から音が聞こえた。

それはまるで天から声が降ってくるような感じだった。
私は更に注意を指先に集中して再びその音を探り当てた。
そして暫く幽かな幽かな、雑音と音声の渾然と交じり合った音を聴いた。何か10人の声も聞こえたが、それが何を言っているのかまでは聞き取れなかった。そのうちに音楽も聞こえたが、その音量はあたかも小さな虹が花に戯れてわずかな羽音を立てるにも似て、何かが囁くように聞こえているというに過ぎなかった。それでも私は、そうして空中から音を拾い出すことに成功して、なにかとてもない発見をしたような興奮を覚えた。そうして科学者になるのも悪くないなあと思ったりした。

ふと見ると晴れた夜空に皓々と月が光り、杉の林のあたりでカラスが鳴くのが聞こえた。

*1 渾然＝別々のものが交じり合って区別できないさま。
*2 皓々＝明るく輝くさま。

ね5い 読解▼表現の特徴をとらえ、意図や効果について理解する。
文法▼活用のない自立語?

問一——線①「それはまるで天から声が降ってくるような感じだった」という表現は、どんなことを表そうとしていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」がラジオから聞こえた音を予想外に大きい音だと感じたこと
- イ 「私」がラジオから聞こえた音を貴重な尊いものと感じたこと
- ウ 「私」がラジオから聞こえた音で宇宙との一体感を感じたこと
- エ 「私」がラジオから聞こえた音で完成を祝福されたと感じたこと

- () () () ()

問二——線②「晴れた夜空に皓々と月が光り」という情景描写には、「私」のどんな気持ちが暗示されていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 将来への明るい希望
- イ 明日も受信したいという願望
- ウ 夜ふかしをってしまった後悔
- エ 日本の発展への期待

- () () () ()

◆表現の読み取り

文学的文章では、さまざまな表現の工夫によって、人物の心情や場面の様子が効果的に描かれています。表現にこめられた作者の意図を読み取るのが大切です。

問一は、組み立て式ラジオを作って必死に音を聞こうとしている「私」の様子が比喩を使って表現されていることを読み取ります。比喩の意味を「私」の状況に重ね合わせて読み取りましょう。

問二は、情景描写の読み取りです。ラジオから音が聞こえた「私」がどんなことを思っているのかをとらえて、表現されている情景の様子と重ね合わせてみましょう。

練習問題 1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校五年生の「わたし」は、弟よしひろと、夏音という所にある祖母の家で夏休みを過ごしている。八十歳の祖母は今でも海女(海に潜って貝などをとる仕事をする女性)として働いていて、海の中では一人だが、さみしくないと言う。「わたし」は、一人でもさみしくないという祖母のことが理解できないでいた。

*1 「ビデオ見るか?」「見る、見る。」

すっかり興奮したよしひろが、リモコンを取りに走った。

『夏音に、海女たちのシーズンがやってまいりました。』

ナレーションが始まり、画面いっぱい、今ではすっかり見慣れた夏音港の風景が映し出された。わたしはごくりとつばをのみこんだ。

『大海女、山崎梅子さん八十歳は、今朝も十キロの荷を背に、海へと向かいます。』

「ばあちゃんじゃあ。」

よしひろは目を白黒させながら、隣に座っている実物と画面のばあちゃんとを見比べた。

わたしは画面にくぎづけだ。いよいよウェットスーツに身を固めたばあちゃんが、海に飛び込む。ばあちゃんの話から想像するだけだった海の中の景色が、画面いっぱい広がった。部屋全体が青く染まる。そっか、ばあちゃんがいつも見ている海の中って、こんな景色なんだ。自分が潜ってるわけじゃないのに息

が苦しくなって、わたしはハフハフと忙しく息を吸った。海の中の映像は美しく、まるでばあちゃんと一緒に青い海の底深く潜っていくような錯覚に、わたしの胸は躍った。

水中に身を沈めたとたん、ばあちゃんの曲がっていた腰がすつと伸びた。まるで魔法だ。足ヒレをゆっくりと動かしながら、海の底へと向かっていく姿は

そっか! 人は心が何かでいっぱいだと、さみしさなんて感じないんだ。ばあちゃんの心はアワビやカキでいっぱい、さみしいなんて感じるひまはないんだ。

3 「すごいことを発見した気がして、ほっぺたが熱くなった。」
(八束澄子「海で見つけたこと」一部省略・一部表記を改めたところがある)
*1 ビデオ一年前に祖母がテレビに出た番組を録画したビデオ。
*2 磯笛=海女が水中での作業を終えて浮上したときにつく息。口笛のように聞こえる。

問一 〈表現〉 〰〰線部の表現は、どんなことを表していますか。「わたしが、」に続けて、文中の比喩を用いた表現を使って書きなさい。
わたしが、

ポイント ビデオを見ている「わたし」が感じていることです。「わたしは画面にくぎづけだ」という表現にも注意しましょう。「わたし」は、目の前の映像に入り込んでいるのです。そういう「わたし」の様子を比喩(たとえ)を使って表現している部分があります。

問二 〈表現〉 線①「水中に身を沈めたとたん……腰がすつと伸びた」とありますが、「わたし」は、海の底に向かって潜っていく祖母の姿を何のようだと感じましたか。文中から一語で書き抜きなさい。

漢字の読み書き7

- ① 繊維工業が盛んだ。 () ⑥ エンピツを削る。
② 土の塊を崩す。 () ⑦ 王様から剣を賜る。
③ 緩いカーブがある。 () ⑧ 情け容赦もない。
④ 堅い材木を切る。 () ⑨ 水に浸しておく。
⑤ 郊外に住んでいる。 () ⑩ 慎み深い人柄だ。

人魚のように優雅で、陸の上のばあちゃんからはまるで想像がつかなかった。海の中のほうが、ばあちゃんはずっとのびやかで、ずっと自由に見えた。

『今日の獲物はアワビです。海の底の岩場に出てきたアワビは、身の危険を感じるとすぐにはりついてとれなくなるので、気づかれないよう後ろからそっと近づきます。』

ばあちゃんの胸の鼓動が画面をとおして聞こえてくるようだ。次の瞬間、ねらいすました一点にすばやく道具がうちおろされ、大きなアワビはばあちゃんの手の中にあつた。

「すつごーい。」

思わず声に出た。

「うん。あれは大物だったな。」

ばあちゃんの鼻の穴がふくらんだ。

『手に持てるだけのアワビをとると、山崎さんはいったん海面に上がります。決して無理はしません。こうして二時間の漁の間、五十回も素潜りを繰り返すのです。』

初めて夏音にきた日、ばあちゃんが食べさせてくれたアワビは、こうしてとつたもんだつたんだ。あのときは緊張していて味がよくわからなかったけれど、もつとよく味わって食べればよかった。ビョー。ばあちゃんの磯笛が海面に響いた。数羽のカモメがにぎやかに鳴きかわしながら、おけのまわりを飛びかっていた。

息を整えたばあちゃんが再び海に潜る。テレビの前でわたしの息も止まる。

隣のよしひろも大きく息を吸い込むのがわかった。ワカメの林をぬってまっすぐに岩場に泳ぎつくと、ばあちゃんは岩と岩とのすきまをのぞき込んだ。

『ありました。去年目をつけていたアワビです。今年はこんなに大きく育っています。』

ナレーターの話りとおして、ばあちゃんの心がびんびん伝わってくる。そのとき突然わたしは、「なーんも、さみしいことなんかないよ。」と言った、ばあちゃんのことばの意味を、深く理解していた。

問三 〈表現〉 線②「ワカメの林」は、どんなことを表現していますか。

問四 〈心情〉 線③「すごいことを発見した気がして、ほっぺたが熱くなった」とありますが、このときの「わたし」の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア それまでは祖母が苦もなく海女の仕事をしていたと思っていたが、ビデオを見ることで、一つの仕事を続けるのは大変だと初めて理解でき、安易に考えていた自分を反省している。
イ それまでは祖母がしている仕事の内容がわからなかったが、ビデオに映し出される様子から、祖母が社会的に意義のある仕事をしていることに気づいて、感動している。
ウ それまでは人生について考えたことはなかったが、ビデオをとおして祖母が真剣に生きているのを知って、いい加減な気持ちで生きていた自分を振り返り、恥ずかしく思っている。
エ それまでは祖母のことばの意味を理解できずにいたが、ビデオを見ることによって、好きなことで心がいっぱいだと人はさみしくないのだということがよくわかり、感激している。

- () ⑪ 日がくれたので帰る。
() ⑫ ユウビンキョクに行く。
() ⑬ 市役所にツトめている。
() ⑭ 情報をテキキョウする。
() ⑮ コンナンを乗り越える。

練習問題 2

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

山の七合目の分岐点で帰りのケーブルカーとすれ違おうと、あとは窓に①に明るい空の分量が占められてくる。やがて上の駅のホームが近づいてきた。山頂の展望台にいくと、弟はまたそこでハーモニカを鳴らした。わたしは高いところが苦手なので、てっぺんのかざられた面積を歩いてみると空に踏みはずしそうになる足の感じをおそれた。

「みて、みて。」と崖のところまで弟が水平に手をひろげて呼んだ。

「姉さん、みてごらん。」彼はひろげた両手を水平に、はばたくまねをして、

「ほく、鳥になろうか。」

わたしはずうつとうしろのほうから、声ばかり大きくして叱りつけた。

昼近くなる頃にはそれでも山頂は登山者でだいぶにぎやかになった。展望台の裏のひとけのない草地に腰を下ろして、わたし達は弁当をひらいた。

【つみをあけると祖母のつくったにぎりめしがでてきた。たぶん祖母は大変あわててつくったのだらうが、そのことをさしひいても、やけに大きいこぼこのおにぎりは彼女の手つきの不器用さがもがたついていた。おかずは煮しめである。急いでいたので朝ごはんの副菜をそのまま詰めたのだらう。そして祖母はかんじんの箸を入れ忘れていたのだった。】

「どうする。」わたしは弟をみた。

「ほく、箸つくつてみようか。」彼はズボンのポケットから鞆のすこし錆びた小刀をだしてみせた。

それでわたし達は弁当をまたつつみ直すと木蔭に置いて、山頂の裏手の林へ行った。彼は歩きながら箸を削る木を物色した。彼は一本の柿の木を見つけると幹に登った。片腕を幹にまわし、もう片腕をのばして適当な枝を折った。彼はそれを見あげているわたしの足もとへと三、四本ふらせた。

柿の木の根方にあぐらをかいて、弟はまるで祖父そっくりの器用な手つきで枝を削った。ていねいにていねいにそいだ二本を、

25

「はい、姉さんのぶん。」とわたしにくれた。それからまたそろそろと慎重にそいで、

「これは、ぼくのぶん。」と草の上に置いた。長さがみんなすこしずつちがう、なま木の色をした箸ができた。わたし達はそれを持ってもとの展望台のところへ帰ると、こんどはほんとうに弁当を食べた。

彼の削った箸はごつごつしてわたしの指を傷めそうだったが、それでも口へ運ぶたびに木のかすかな匂いがした。

「これ、持って帰ろうか。」とわたしがいうと、弟はおにぎりをほおばりながら、

「いいから捨てとき。」と首をふった。

「また、いつでもつくつてやるよ。」満足そうにいうのだった。

弁当をすませると、わたし達は草の上に寝た。明るい空の色がとじた晩のうらに映った。鳥の声や蝉の音が耳に流れこんだが、それはわたしに眠たいような、うつとりした気分をもよおさせた。わたし達はすこしのあいだほんとうに午睡した。

(村田喜代子『銅索電車』)

35

★ 問一 〈表現〉 —— 線①「窓にしだいに明るい空の分量が占められてくる」と

は、どんなことを表していますか。最も適切なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 雨があがって雲が流れていき、雲の切れ間から太陽が顔を出してきたこと

イ 帰りのケーブルカーが移動したので、さえぎられていた風景がよく見えるようになったこと

ウ ケーブルカーが高度を上げるにつれて、窓から空が広々と見えるようになったこと

エ 七合目の分岐点を過ぎたところで、ケーブルカーの窓の日よけが上げられたこと

()

★ 問六 〈心情〉 —— 線⑥「これ、持って帰ろうか」とありますが、「わたし」は

なぜこんなことを言ったのですか。最も適切なものを次のうちから選び、

記号で答えなさい。

ア 弟の手先の器用なことを誇りに思い、だれかに自慢したいと思ったから。

イ 弟が自分のためにていねいにそいでつくった箸なので、愛着を感じたから。

ウ 弟が長い時間をかけてつくった箸なので、粗末にしては弟が気を悪くするだろうと思ったから。

エ つくりたての箸の匂いが気に入ったので、弟にもっとつくらせようと思ったから。

()

★ 問七 〈心情〉 —— 線⑦「満足そうにいうのだった」とありますが、弟はなぜ満足そうだったのですか。 —— 線⑧「これ、持って帰ろうか」という「わたし」の言葉を踏まえて書きなさい。

問四 〈語句〉 —— 線④「物色」の意味を書きなさい。

(2) (1)で答えた弁当の特徴は、どんなことに最もよく表れていますか。

★ 問三 〈表現〉 —— 線③「わたし達は弁当をひらいた」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) この弁当は、祖母の不器用さが表れた弁当ですが、それ以外にどのような弁当だと言えますか。【】に描かれていることを読み取って書きなさい。

★ 問五 〈表現〉 —— 線⑤「こんどはほんとうに弁当を食べた」とありますが、

「こんどはほんとうに」には、どのような意味がこめられていますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 箸を入れ忘れた祖母に怒りを感じていること

イ なま木の箸で食べた弁当がとてもおいしかったこと

ウ 知らない人の群れから解放されてほっとしていること

エ 弁当を食べるのを待ちわびていたこと

()

★ 問八 〈表現〉 この文章の表現の特徴を説明したものととして最も適切なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア できごとが、「わたし」の目を通して、比喩などを多用せずにあるのま

まに淡々と描かれている。

イ 「わたし」と「弟」の交流が、第三者の目を通して、写實的に詳しく描

かれている。

ウ 「わたし」の見た情景が、比喩や象徴的な表現を多用して、美しく幻想

的に描かれている。

エ 「わたし」の心情が、わたしと弟の会話を中心にして、深く掘り下げ

()

文法 活用のある自立語②(形容詞・形容動詞)

◆形容詞の性質と働き

「美しい・楽しい」のように、物事についての「どんなだ」という状態や性質を表し、さまざまな文の成分になる。

*補助形容詞(形式形容詞)……形容詞本来の意味が薄れ、補足的に用いられる形容詞。 例 冷めていておいしく**ない**。

◆形容詞の活用

命令形はない。「ない」は連用形に続く。

例 よ**かろ**う・よ**かつ**た／よ**く**ない・よ**い**とき・よ**ければ**

◆形容動詞の性質と働き

「静かだ(です)・きれいだ(です)」のように、物事についての「どんなだ」という状態や性質を表し、さまざまな文の成分になる。

◆形容動詞の活用

命令形はない。「ない」は連用形に続く。

例 静か**だ**らう・静か**だ**つた／静か**で**ない／静か**に**なる・静か**だ**・静か**な**とき・静か**なら**ば

2 次の——線部の形容詞の活用形を書きなさい。

(1) 寒**か**ろう (2) 暑**く**ない

(3) 痛**か**つた (4) 高**い**山

(5) 楽**し**く過**ご**す (6) 涼**し**ければ

3 次の形容詞に「ございます」が続く場合の語形を書きなさい。

(1) は**や**い (2) 悲**し**い

4 次の文章から形容動詞をそのままの形ですべて書き抜きなさい。

にぎやかな商店街を過ぎると、急にひっそりとした住宅街になった。夜は、さぞかし寂**さび**しかろうと思った。しかし、穏**おだ**やかだったのはほんの一瞬**いつとき**で、元気でやかましいくらい活動的な子どもの声が聞こえた。

5 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

(1) 重**おも**くない (2) 華**はな**やかだった

(3) 貴**う**重**おも**だろう (4) 朗**はつ**らかに歌う

(5) 明**あ**らかならば (6) おし**や**れな人

10 文学的文章の読み方・解き方

例題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨が降った日は必ず、じいちゃんが学校まで迎えに来てくれた。

「『弁当忘れても傘忘れるな。』て、いつも言うてるのによ。」

下駄箱の前で待っていると、じいちゃんはいつもそう言いながら、オレの黄色い傘を差し出してくれた。

「給食あるから、弁当いらねーもん。」

舌を出しながら、オレはそれを受け取る。

「まったくコイツはあ。」

じいちゃんは顔のシワを総動員して「カカカ」と笑った。

小学校から家までは一キロくらいの距離で、大通りをひとつとつれるともう、店はほとんどない。国鉄の官舎を通り抜けた後、小さな山の斜面を右手に見ながら、10

畑や民家が途切れ途切れに並ぶ道をランドセルを背負って延々歩かなければならない。鬱蒼と茂る木々のせいで、その辺りは晴れた日の昼間でも日陰になっていた。たまに帰りが一人になった時なんかは退屈だし、ちょっとだけ怖かった。

けど、じいちゃんと一緒に歩く雨の日は、おんなじ道の景色ががらりと変わった。たとえば、空き地に捨てられたままの洗濯機。フタのない洗濯槽に雨水15

がたまり、どこから来たかわからないアメンボがふわふわと泳いでいるのをオレは爪先立ちになって覗き込んだ。観察しなければならぬものは、次から次

へと姿を現した。土から這い出てきてふやけたミミズや、タイヤ跡の水たまり

に浮かぶ油の虹。

そういうのを見つけたら、オレは駆け寄って棒の先で突っついてみたり、20

ただじいっと眺めたりした。

* 国鉄旧日本国鉄道の略称。現在のJR。

(日向蓬『糸トンボ』)

ねらい 読解▼場面の様子や言動をとらえ、人物の心情を理解する。言語▼ことわざ

問——線部「おんなじ道の景色ががらりと変わった」とありますが、どのように変わったのかをまとめた次の文のA・Bにあてはまる言葉を、Aは八字以内で書き、Bは「興味」という言葉を使って十五字以内で書きなさい。

「オレ」が一人で帰る時の、A 道の景色から、B 道の景色へと、変わった。

Diagram with two columns labeled A and B, each containing a grid for writing answers.

◆場面の様子をとらえる

文学的文章では、場面・言動・心情のかかりを読み取ることが大切です。どんな場面で、どんな言動をし、どんな心情でいるかを別々に読み取るのではなく、それぞれがどのようにかわり合うかを総合的にとらえます。ここでは、一人で帰る時、じいちゃんと帰る時という場面の変化が、「オレ」の行動や心情にどんな変化をもたらしているかを読み取ります。

◆言動をとらえ、心情を理解する

人物の心情は言動に表れます。どんな言動が、どんな心情を表しているかを読み取ります。心情の理由は言動にあり、言動の理由は心情にあります。ここでは、じいちゃんと帰る時の「オレ」の行動に表れた心情が、「興味」という言葉を使ってどのように説明できるかを考えましょう。

練習問題 1

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昨年の初冬に、家内と家内の妹の三人で伊豆半島の海沿いにある温泉へ行つた。旅館の玄関を入ってすぐの所の壁に、テレビドラマや小説を多作した故人の文筆家の色紙が飾られている。かたわらの説明書には、その方がこの旅館で評判になった連続ドラマを執筆したとある。

部屋に通されると、中年の女中さんが茶菓を盆にのせて入ってきた。

家内が小さな袋に入れたチップを渡そうとすると、女中さんは、

「お気持はありがたいのですが、私は、この旅館に勤めてから三日目で、十分なおもてなしができるかどうか、自信がありません。①もしも、御一泊してお客様が私のおもてなしをお気に入られたら、その時に頂戴いたします」

と言つて、受取らない。

たしかに素人っぽいところがあるが、それが初々しくもあり、私は、出したものだから受取りなさい、と言葉を添え、ようやく女中さんはそれをおさめた。

部屋は決して上等とは言えず、落着いた気分にはならなかったが、その女中さんの態度が好ましく、この旅館に来てよかった、と思った。

翌朝、食事をすませてくつろいでいると、女中さんが、大きな硯と色紙を持って入ってきた。

私は、困ったな、と思った。小説は書いているが、流行作家とは程遠い身である。テレビに出るのは苦手で、写真をとられることも少ない私は、小説家と見られたことはない。それなのに、なぜ、小説を書いていることがわかったのか。

女中さんは、旅館の主人の妻が小説好きで、私が小説を書いている男だと気づき、記念に色紙を書いて下さるよう頼んで来なさい、と言われたという。

私は、玄関の近くに飾られていた色紙を思いうかべた。私が色紙を書いたとしたら、たとえ流行作家ではなくとも壁のどこかにかかげられるかも知れない。旅館の客は、色紙を見ても、私の名を知る人などないだろうし、拙い字だと蔑

まれるのが落ちだ。

「私は、色紙を書かないことにしているので、申し訳ないが……」

事実、私は色紙を書くのが苦手で、それを口にしたのだが、女中さんは、ぜひに、と繰返して言う。

「字が下手なので、恥しいから書かないんだ」

私は、気が重くなった。

「そんなこと、気になさらず、下手でも結構ですから……」

女中さんの言葉に、家内と家内の妹がかすかに笑っている。

私として自著に署名する時は筆を使い、うまいとは決して思わぬが、それほど下手でもないという気持はある。下手でも……と真面目に言う女中さんに、私も思わず苦笑した。

「本当に驚くほど下手なんだ」

私は、繰返した。

「下手でもいいんです」

女中さんは、再び言った。

私は、女中さんが愛らしくなった。私の言葉をそのまま素直に受取っている彼女の真面目さを、決して軽んじてはいけなと思った。

もしも私が頑強に断つて書かなかつた場合、女中さんは悲しい思いで帳場にゆき、主人の妻に頭をさげてその旨を伝えるだろう。勤めて間もない彼女は、仕事に自信を失うかも知れない。

私は、あらためて、

「本当に下手だよ」

と言ひ、色紙に筆を走らせた。

女中さんは、ありがとうございます、と頭を深くさげ、色紙を手部屋を出て行った。

その色紙は、どうなったか。壁に飾られることなく、どこかに放置されているのではないだろうか。その方が、私にとってはありがたいのだが……。

(吉村昭「旅行鞆のなか」)

漢字の読み書き10

- ① 主人公が哀れた。
② 褐色に焼けた肌。
③ 市民の憩いの場だ。
④ 鶏が卵を産む。
⑤ 演奏が巧みだ。

- ()
()
()
()
()

- ⑥ 車が疾走する。
⑦ 需要が増えている。
⑧ 施設の拡充を図る。
⑨ 迅速に対応する。
⑩ 彼の方法に追随する。

- ()
()
()
()
()

- ⑪ リコテキな性格を改める。
⑫ 大変なホネオリ仕事だ。
⑬ 与党がセイサクを練る。
⑭ 美しいヨウシの女優。
⑮ ワカモノが好む味だ。

- ()
()
()
()
()

問三 〈内容理解〉

線③「家内と家内の妹がかすかに笑っている」とありますが、なぜ笑っているのですか。最も適切なものを次のうちから選び、

ポイント 女中さんの言動と、筆者の心情にかかわる読み取りです。女中さんは筆者に対してどのようにし、一方、筆者はそれに対応し、どう思ったのでしょうか。

Grid for question 3 with columns A and B.

問一 〈人物像〉

線①「もしも、御一泊して……その時に頂戴いたします」という言葉から、どんなことが感じられますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 女中さんの頑固さ
イ 女中さんの誠実さ
ウ 女中さんの無欲さ
エ 女中さんの慎重さ

問二 〈心情〉

線②「私は、気が重くなった」とありますが、その理由をまとめた次の文のA・Bにあてはまる言葉を、Aは十五字以内で書き、Bは「納得」「口実」の二語を使って十五字以内で書きなさい。

「色紙は書かない」と断つたのに、Aので、「字が下手で恥しいから」と、相手がB断らなければならぬのをわずらわしく感じたから。

問四 〈場面〉

線④「その旨」の指している内容を、二十字以内で書きなさい。

Grid for question 4.

問五 〈心情〉

線⑤「色紙に筆を走らせた」とありますが、筆者が結局色紙を書くことにしたのはなぜですか。

Grid for question 5.

練習問題 2

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

戦争中の学生であったが、私はよく句集を読んだ。たとえば三省堂から袖珍版の句集シリーズが出ていて、たぶん一冊五十銭であった。ポケットにしほせて軍事教練の休憩時間などに盗み読む味は格別である。ところが、どうもその読み方が落着かない。ざっと目を走らせるだけなら、すぐ読めてしまうが、それではいけないことくらいはわかつていて、句会の披露で、二度読む。それを真似てみるが、どうもしっくりしない。もうすこし時間をかけて、三度、四度とくりかえしても、必ずしもいいとは限らない。読んでいるうちに、だんだん不安になってきて、ページを伏せるということもあった。

やがて戦争はげしくなると、そういった句集すら手に入りにくくなる。勤労動員に出て、夕方、宿舎へかえると、防空遮蔽幕のついた電灯の下で、句集¹⁰を筆写した。

仙花紙の答案用紙かなにかの裏を使って、水っぽくすいインクで、ゆつくり写して行く。おろろのなき声につつまれて夜のふけるまで写本をしたことが夢のように思い出される。やはり、俳句はこうして味わうのがいちばんだと思つた。目で読んでいただけでは本ものではない。口ずさんで、手で書いてみて、はじめて深く伝わってくるものがある。そんな風に考えてはみたものの、やはり、これも、俳句の読み方として正統的なものとは言えそうもない、という気がどこかに残つたのも事実である。

戦争がすんだら、世の中が万事⁶バタ臭⁶なつたようである。そんな空気の中で、俳句は第二芸術であるという論があらわれて、大きな話題になつた。人々²⁰は、戦争に負けてすこしどうかしていたのであろう。第二芸術でも、もつたないくらいに考えて、この新説に拍手を送つたのである。

この頭のいい議論は、しかし、どこか、おかしい。どこがおかしいのかわからないが、どうも変である。そう思いつづけて二十年がたつた。このころになって、ようやく、そのおかしさの依つてきたところは、案外、²⁵

俳句の読み方にあるのではないか、と思うようになった。外国語の活字をにらんで読む——これはおそらく読みの極限状況であろう。わからなければ、辞書を引く、註釈を参考にすると、文法の助けもかりる。とにかく、活字を攻めて行つて何とかわかる。頭で読むほかはない。

これはつまり散文の理解の仕方である。局外に立った人間の読み方である。俳句でこういう読み方をすれば疑問は雲のようにわいてくるだろう。そもそも何を言っているのかもはっきりしない。これで独立した表現と言えるだろうかという疑問も生まれるかもしれない。第二芸術どころではない。われわれにとつて外国語の読み方もつとも尖鋭な意識に支えられていて、その限りでは知的にもすぐれた読みの方法である。それを、俳句に適用したところに悲劇があつた。

それというのも、俳句の読み方がはっきりしていないからである。どうしていいかわからないから、つい、散文の読み、外国語の読みを流用してしまう。目と頭だけでわからうとする。それが俳句にとって、いかにひどい仕打ちになるか、考えられなかつたのではあるまいか。

短詩型文学は、散文を読むように読んではいけないのである。そもそも「よむ」こと自体が詩となじまぬ。朗唱、朗詠すべきであらう。声にして、音にして、その響きが意識のほの暗い所をゆさぶる。いわば心で読む。舌頭に千転させて、おのずから生じるものを心で受けとめる。そういうものでなくてはならない。

- *1 袖珍版⇨ポケットに入れて持ち歩けるような小型版。
*2 軍事教練⇨軍事上の訓練。戦争中は学校でも行われた。
*3 披露⇨句会などで俳句を読み上げること。
*4 防空遮蔽幕⇨空襲の時、明かりが見えないように電球を覆つた布。
*5 仙花紙⇨当時使われていた粗末な洋紙。
*6 バタ臭⇨「バタ臭い」に同じ。西洋的なにおい。傾向があること。
*7 第二芸術⇨桑原武夫の評論による。俳句の芸術性を第二義的と低くみなした。
*8 舌頭に千転させて⇨何度も声に出して。

(外山滋比古「俳句的」)

★ 問一 〈心情〉——線①「だんだん不安になってきて」とありますが、その理由として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 繰り返し読んでただ文字を追っているだけで、俳句を正しい読み方で本当に味わつてはいないと感じたから。
イ 句会の披露をただ真似ているだけなので、本当のやり方を正式に習う必要があると感じたから。
ウ 自分の使っている袖珍版の句集の中に、本当に優れた俳句が載っているのかどうか疑問に思つたから。
エ 俳句の鑑賞の仕方を教わつた記憶がないので、自分の読み方は正式なものかどうか疑問に思えてきたから。

★ 問二 〈場面〉——線②「こうして味わう」とは、どうすることですか。「静かなところ」で……味わうこと」の形で書きなさい。

味わうこと
静かなところで

問三 〈文脈〉——線③「人々は、戦争に負けてすこしどうかしていたのであろう」とありますが、これはどんなことに対する筆者の言葉ですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 自国の文化は古くて使いものにならないと考え、それらを捨て去ってしまったこと
イ 欧米の考え方や文化こそが優れたものであると考え、俳句を芸術性の低いものとみなしていたこと
ウ 欧米の考え方や文化には見向きもせず、ひたすら自国の文化ばかりを見ていたこと
エ 俳句という短詩型文学が洗練されたものとなるように、さらに上のレベルを目指したこと

★ 問四 〈心情〉——線④「頭のいい」とありますが、筆者はどのような意図をこめてこのような言い方をしたのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 当時の人々への皮肉
イ 当時の人々への同情
ウ 当時の人々への戒め
エ 当時の人々への賞賛

問五 〈内容理解〉——線⑤「どこか、おかしい」とありますが、結局どんな点がおかしかったと筆者は思っていますか。「散文」「外国語」の二語を使って三十五字以内で書きなさい。

Grid for writing answer to Question 5.

問六 〈内容理解〉——線⑥「頭で読む」とありますが、それとは対照的な、俳句の本来の読み方はどのようなものだと筆者は思っていますか。四十字以内で書きなさい。

Grid for writing answer to Question 6.

◆ことわざとは

昔から世間に言い伝えられてきた、教訓・風刺などを短く表現した文句を「ことわざ」という。一見しただけでは意味のわからないものが多いので、辞典などで調べて覚えておくとうい。

一寸の虫にも五分の魂…どんな小さいもの、弱いものにもそれ相当の自尊心がある。

・えびで鯛を釣る…わずかなものをもとに大きな利益を得る。

・河童の川流れ…上手な人でも失敗することもある。

・背に腹はかえられぬ…迫る不都合を避けるには、他の不都合は仕方ない。

・たでくう虫もすきすき…人の好みはまちまちであること。

・提灯に釣り鐘…つりあいが取れないこと。

・泣きつ面に蜂…悪いことのうえにさらに悪いことが重なる。

・ぬかに釘…効き目がないこと。

・焼け石に水…少しぐらいの加勢や助力では、まったく効き目がないこと。

・良薬は口に苦し…身のためになる忠告は、ありがたいが聞くのがつらい。

1 次の(1)~(10)がことわざとして完成するように、()にあてはまる言葉をそれぞれ書きなさい。

- (1) ()より育ち (2) 帯に短し ()に長し
- (3) 立つ ()あとを濁さず (4) おぼれる者は ()をもつかむ
- (5) 身から出た () (6) せいては ()をしそんじる
- (7) ()に腕押し (8) ()の太木
- (9) ()はもち屋 (10) 類は ()を呼ぶ

- (4) () (5) (6)
- (7) (8) (9)
- (10) () () ()

2 次の各文の内容にあてはまることわざをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) テストの結果がさんざんだった日の帰り道に、転んで足をねんざしてしまつた。
- (2) 若いころ絵を勉強していた祖父は、先日、町内運動会のポスターを頼まれてかいたが、なかなか好評であった。
- (3) 叔父が誕生祝いにくれたギターはかなり高価なものらしいが、あいにくはくはギターが弾けない。
- (4) 最近、隣のクラスのA君が、昼休みになるとほとほと来ておしゃべりをしていくが、どうやらほとほとのクラスのB子さんに興味があるらしい。
- ア 亀の甲より年の功 イ 弱り目にたたり目
- ウ 昔とつたきねづか エ 安物買いの銭失い
- オ 下手の横好き カ 猫に小判
- キ 敵は本能寺にあり ク 朱に交われれば赤くなる

3 「ぬかに釘」ということわざを使って、主語と述語の整った短文を作りなさい。

- (1) () (2) () (3) () (4) ()

11 詩の鑑賞

例題

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

地方 石垣りん

私のふるさととは

地方、という所にあつた。

私の暮らしは

首都の片隅にある。

ふるさとの人は山に木を植えた。

木は四十年も五十年もかかつて

やつと用材になつた。

成人してから自分で植えたのでは

一生の間に合わない

そういうものを植えて置いた。

いつも次の世代のために

短い命の申し送りのように。

もし現在の私のちからの中に

少しでも周囲の役に立つものがあるとすれば

それは私の植えた苗ではない。

ちいさな杉林

ちいさな檜林。

地方には

自然と共に成り立つ生業があつたけれど

首都には売り買いの市場があるばかり。

読解 詩のさまざまな表現技法を押さえて、鑑賞する。

市場ばかりが繁栄する。人間のふるさととは

地方、という美しい所にあつた。

問一 この詩の分類として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 文語定型詩 イ 文語自由詩
- ウ 口語定型詩 エ 口語自由詩

問二 この詩に用いられている表現技法を次のうちから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 対句法 イ 反復法 ウ 直喩 エ 擬人法

◆詩の分類

- (1) 用語 ① 口語詩…現代の言葉(口語)で表現された詩。
- ② 文語詩…昔の言葉(文語)で表現された詩。
- (2) 形式 ① 定型詩…音数や行数に一定の決まりがある詩。
- ② 自由詩…定型詩のような決まりを持たない詩。

◆詩の表現技法

- (1) 比喩 ① 直喩(明喩)…「ようだ」などを使って直接的にたとえる。
- ② 隠喩(暗喩)…「ようだ」などを使わず暗示的にたとえる。
- ③ 擬人法…人間以外のものを人間に見立てて表現する。
- (2) 対句法…構成が類似し、内容的にも対になった句を並べる。
- (3) 反復法…同じ語句や文を繰り返して、印象を強める。

言語 故事成語

◆故事成語とは

昔から伝わる故事（昔の事実・いわれ・物語）から生まれた言葉で、人生の知恵や教訓的な意味を持つもの。多くは、中国の古典に基づいている。「ことわざ」と同じく、一見ただけでは意味のわからないものが多いので、辞典などで調べて覚えておくことよ。

・「羹」は熱い吸い物、「膾」は細かく切った冷たいあえもの。羹でやけどをした男が、膾も吹き冷まして食べたという話に基づく。

・臥薪嘗胆：目的を達成するため、苦難に耐えること。かたきをうつために、堅い薪の上に寝たり、苦い獣の肝をなめたりして、屈辱を忘れないようにしたという話に基づく。

・四面楚歌：周囲が敵ばかりで孤立すること。敵勢に囲まれた楚の国の武將が、周囲から敵の歌う楚の歌が聞こえたのを、自国が敵に占領され降伏したものと思い、「周囲は敵ばかりだ」と思ったという話に基づく。

・人口に膾炙する：広く人々の口の上で評判になる。古来より、膾と炙った肉は、だれにも好まれたということに基づく。

・他山の石：他人のつまらぬ言動も自分を磨く助けになるということ。よその山から出た粗悪な石でも、自分の貴重な玉を磨く役には立つという話に基づく。

・矛盾：つじつまが合わないこと。どんな盾でも突き通す矛と、どんな矛でも突き通せない盾の両方を売っていた男が、その矛でその盾を突いたらどうなるのかと言われて答えられなかったという話に基づく。

1 次の故事成語と（ ）内の意味が合っていないものをすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 五十歩百歩（たいして違いないこと）
- イ 竜頭蛇尾（勢いを盛り返すこと）
- ウ 青天の霹靂（思ってもみないことが突然起こること）
- エ 呉越同舟（敵味方が同席すること）
- オ 隗より始めよ（事はめんどうなところから着手せよということ）

2 次の故事成語は、（ ）内の意味を表します。□にあてはまる言葉それぞれ書きなさい。

- (1) □ 点晴を欠く（物事の最も大事な最後の仕上げが欠けていること）
- (2) □ の利（二者で争っている間に、第三者が利益を横取りすること）
- (3) □ を借る狐（強い者の威光をかさにきて、いばり散らすこと）
- (4) □ の背水の陣（ぎりぎりの状況のもとで、一か八かの勝負をかけること）
- (5) □ 鶏口となるも□ とするな（大きな組織で人の後ろについているよりも、小さな組織でもそのリーダーになるのがよい）
- (6) □ 虎穴に入らずんば□ を得ず（危険を冒さなければ大きな利益や功績はあげられない）

(1) □ (2) □ (3) □

(4) □ (5) □ (6) □

3 「蛇足」の読みと意味を書きなさい。

読み □

意味 □

ねらい 読解▼短歌・俳句の決まりや表現技法を押さえて、鑑賞する。言語▼四字熟語

12 短歌・俳句の鑑賞

例題

1 次の短歌と俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

- A この山はたださうさうと音すなり松の風椎に椎の風
 - B 飛びあがり宙にためらふ雀の子羽たたきて見居りその揺るる枝を
 - C よく見れば薺花咲く垣根かな
 - D 菊の香や奈良には古き仏たち
- （短歌は北原白秋、俳句は松尾芭蕉）

問一 Aの短歌は何句切れですか。漢数字で答えなさい。

句切れ

問二 A・Bの短歌の表現上の特色を説明したものととして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア A・Bともに体言止めが用いられている。
- イ A・Bともに倒置法が用いられている。
- ウ A・Bともに字余りの歌である。
- エ A・Bともに擬声語が用いられている。

問三 C・Dの俳句から切れ字をそれぞれ書き抜きなさい。

C

D

問四 C・Dの俳句からそれぞれ季語を書き抜き、その季節を答えなさい。

C 季語

季節

D 季語

季節

◆短歌の重要事項

- (1) 句切れ：短歌の「五・七・五・七・七」のそれぞれの句を「初句・第二句・第三句・第四句・結句」というが、結句以外の句で歌が区切れることを句切れという。普通の文章の「。」にあたる意味の切れ目が句切れ。
- (2) 字余り・字足らず：「五・七・五・七・七」の定型よりも音数の多いものを字余り、少ないものを字足らずという。
- (3) 表現技法
 - ① 体言止め：結句を体言（名詞）で止め、余情を生む。
 - ② 倒置法：語順を普通とは逆にして、強調する。
 - ③ 枕詞：一定の言葉を導き出すために用いられる言葉。歌の意味とは直接の関係はない。

◆俳句の重要事項

- (1) 切れ字：句を意味やリズムの切れ目でいったん切り、感動を強調するための言葉。「かな・や・けり・し・か・ぞ・つ・ぬ」など。
- (2) 季語（季節）：季節を表す言葉。一句の中に二つ詠みこむことが決まりとなっている。一句に二つ以上季語があるものは「季重なり」という。季語は旧暦（太陰暦）によるので、現代の新暦（太陽暦）の季節感とはずれるものもある。例えば、次のようなものである。

天の川・七夕・朝顔：秋

- (3) 無季・自由律俳句：俳句は、有季（季語がある）定型（五・七・五）が決まりだが、季語のない無季俳句、定型によらない自由律俳句というものもある。

言語 四字熟語

◆四字熟語の特徴

四字熟語は、言葉自体は短い、一字一字の漢字の意味が組み合わせられているので意味は深い。故事成語から生まれた四字熟語もあり、さまざまな文章の中で用いられるので、ただ暗記するのではなく、意味もしっかりと押さえておきたい。

・暗中模索：①手がかりもなく、あちこちさがしまわること。②確かな方法がわからないままにいろいろなことを試みにやってみること。

・有為転変：世の中が常に変化してやまないこと。

・一挙両得：一つのことで二つの利益を得ること。

・温故知新：古いことを研究し、新しい見解、知識を得ること。

・起死回生：絶望的な状態から盛り返し、よい状態に戻すこと。

・疑心暗鬼：疑う心があると、何でもないことまで信じられなくなり、不安になること。

・言語道断：もつてのほかであること。

・枝葉末節：中心から外れた、つまらない細かな事柄。

・千載一遇：めったにめぐりあえない絶好のチャンス。

・付和雷同：自分で考えもせず、むやみに他人の説に同意すること。

・本末転倒：大事なこととそうでないことを取り違えること。

1 次の(1)～(6)が四字熟語になるように、□にあてはまる漢字一字をそれぞれ書きなさい。

- (1) 起承□結 (2) 一石二□ (3) 異□□音
- (4) 奇□天外 (5) 自□自賛 (6) 朝□暮改

(1) _____ (2) _____ (3) _____

(4) _____ (5) _____ (6) _____

(4) _____ (5) _____ (6) _____

2 次の(1)～(5)が四字熟語を用いた文になるように、□ a・b にあてはまる漢字一字をそれぞれ書きなさい。

- (1) 一□二□を繰り返す白熱したゲーム。
- (2) 試合の経過に一□二□する。
- (3) 英語は一□a二□bでマスターできるものではない。
- (4) A案もB案も一□a二□bがあり、どちらを採るか決めかねている。
- (5) 人と人との出会いは一□a二□bであるから大切にしよう。

(4)	a	b
(1)	a	b
(5)	a	b
(2)	a	b
(3)	a	b

3 次の(1)～(6)に示した意味を持つ四字熟語になるように、□にあてはまる漢字をそれぞれ書きなさい。

- (1) 大器□成 (大人物は普通より遅れて大成するということ。)
- (2) 臨□応変 (そのときに臨み、成り行きの変化に応じて適切な手段をとること。)
- (3) 絶□絶命 (どうしても逃れられない困難な立場にあること。)
- (4) 五里□中 (物事の判断に迷い、見込みや方針がまったく立たないこと。)
- (5) □刀直入 (前置きなどを省いて、いきなり本題に入ること。)
- (6) 厚顔無□ (あつかましく、ずうずうしい様子。)

(1) _____ (2) _____ (3) _____

(4) _____ (5) _____ (6) _____

13 古文の読み方・解き方

例題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。
うつくしきもの 瓜にかきたるちごのかほ。雀の子の鼠鳴きするに、をどり来る。二つ三つばかりなるちごのいそぎてはひ来る道に、いとちひさき塵のありけるを、目ざとに見つけて、いとをかしげなる指にとらへて大人などに見せたる、いとうつくし。頭はあまそぎなるちごの、目に髪のおほへるを掻きはやらで、うちかたぶきてものなど見たるもうつくし。(清少納言「枕草子」)

- *1 ちご＝幼児。
- *2 鼠鳴きするに＝ねずみの鳴き声をまねてちゅうちゅう呼ぶと。
- *3 目ざとに＝目ざとく。
- *4 あまそぎ＝肩の高さで切りそろえたおかつぱ髪。
- *5 うちかたぶきて＝頭をかたむけて。

問一 線①「うつくしき」は、現代語とは異なり、「かわいらしい」という意味ですが、同じく「かわいらしい」という意味の言葉を古文中から書き抜きなさい。

問二 線②「かほ」、③「をどり来る」、④「ちひさき」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

ねらい 読解 かなづかいなどの古文の特徴を押さえて、正確に理解する。言語 慣用語

◆古語の特徴

- (1) 現代語にはない語がある：古語独特の単語に注意する。
*いと→たいへん・とても *げに→本当に・なるほど
*つきづきし→似つかわしい
- (2) 現代語と同形で意味の異なる語がある。
*あはれ→趣がある *すさまじ→興ざめた *やがて→すぐに

◆かなづかい 古文のかなづかいを「歴史的かなづかい」という。現代かなづかいに直すには、次のようなルールがある。

- (1) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
*あやふし→あやうし *いとほし→いとおし
- (2) 「ぢ・づ」→「じ・ず」
*なんぢ→なんじ(汝) *しづか→しずか
- (3) ワ行の「ゐ・ゑ・を」→ア行の「い・え・お」
*ある→いる *ゆゑに→ゆえに *をんな→おんな
- (4) 「au・iu・eu・ou」→「o・yū・yō・ō」
*かうべ(頭)→こうべ *けふ→きょう *さうらふ→さうろう

◆係り結びの法則

文中に、特定の係助詞(疑問や強意を示す語)があるとき、結びの語が終止形以外になる決まりがある。これを「係り結び(の法則)」という。

- (1) 「ぞ・なむ・や・か」の場合→連体形で結ぶ。
- (2) 「こそ」の場合→已然形で結ぶ。

練習問題 1

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、京にありける雑色男の妻、夕暮方に暗くなるほどに、要事ありて、大路に出たりけるが、やや久しくかへり来たらざりければ、夫、「など遅くは来るならむ」とあやしく思ひてゐたりけるほどに、妻入り来たり。さてしばしばかりあるほどに、また同じ顔にして有様露ばかりも違ひたるころもなき妻入り来たり。

夫これを見るに、あさましきこと限りなし。「いかにまれ一人は狐などにこそはあらめ」と思へども、いづれをまことの妻といふことを知らねば、思ひめぐらすに、「後に入り来たる妻こそ定めて狐にてはあらめ」と思ひて、男大刀を抜きて、後に入り来たりつる妻に走りかかちて切らむとすれば、その妻、「こはいかに。我をばかくはするぞ」といひて泣けば、また前に入り来たりつる妻を切らむとて走りかかれば、それもまた手をすりて泣きまどふ。

(『今昔物語集』)

- *1 雑色 雑役をつとめる者。 *2 要事 大切な用事。
*3 大路 大通り。 *4 など どのようにして。なぜ。
*5 あさましき ここでは、びっくりしたということ。
*6 いかにまれ とうにかく。いずれにせよ。
*7 定めて しっかりと。 *8 大刀 長い刀。
*9 かくはするぞ 手をすりて 手をすり合せて。命ごいをするのですか。
*10 手をすりて 手をすり合せて。命ごいをするのですか。
*11 泣きまどふ 激しく泣いて取り乱す。

問一 〈現代語訳〉 —— 線①「やや久しくかへり来たらざりければ」の現代語訳として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア しばらくして、やっと帰って来たので
イ かなり長い時間、帰って来なかったの

2 次の古文は、1の続きの文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

しかれば、男思ひあつかひてとかく騒ぐほどに、なほ前に入り来たりつる妻のあやしくおほえければ、それを捕へていたるほどに、その妻あさましくさき尿をさとはせかけたりければ、夫くささに堪へずしてうちゆるしたりけるあひだに、その妻たちまちに狐になりて、戸の開きたりけるより大路に走り出て、こうこうと鳴きて逃げ去りにけり。その時に、男ねたくくやくしく思ひけれども、さらにかひなし。

これを思ふに、思量りもなかりける男なりかし。しばらく思ひめぐらして、二人の妻を捕へてしぱりつけておきたらましかば、つひにはあらはれなまし。いと口惜しく逃がしたるなり。郷の人どもも来たり集まりて見のしりける。狐も益なきわざかな。希有の命を生きてぞ逃げにける。妻の大路にありけるを見て、狐のその妻の形と変じてはかりたりけるなり。しかればかやうのこのあらむには、心を静めて思ひめぐらすべきなり。希有にまことの妻を殺さざりけることこそ賢けれ、とぞ人いひける、となむ語り伝へたることや。

(『今昔物語集』)

- *1 思ひあつかひて どのようにしたらいいかわからなくて。
*2 あさましく ここでは、ひどく。
*3 さとはせかけたりければ しっかりとひっかいたので。
*4 うちゆるしたりけるあひだに 手をゆるめたすきに。
*5 ねたく しまったと思つて。
*6 さらにかひなし どのようにもしかたがない。
*7 思量り 思慮。

漢字の読み書き13

- ① 閲覧室は静かだ。
② 概略は理解した。
③ 名前を偽る。
④ 夜空を仰ぎ見る。
⑤ 愚かな行動をする。
⑥ 過去を顧みる。
⑦ 克明に記録する。
⑧ 静粛に願います。
⑨ 血液が体内を循環する。
⑩ 先生に薦められる。

ウ しばしば帰って来なければ

エ いつもより早く帰ってこなければ

ボイント 古文の現代語訳は、前後の文脈も含めて考えましょう。直後に「など遅くは来るならむ」とあることに着目します。前の部分の「出たりけるが」は、「出たのだが」という意味です。

問二 〈かなづかい〉 —— 線②「あやしく思ひてゐたりけるほどに」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

ボイント 現代かなづかいに直す箇所は二つあります。直し方のルールに従って、正確に直しましょう。

問三 〈文脈〉 —— 線③「夫これを見るに、あさましきこと限りなし」とありますが、夫はどんなことに驚いたのですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 妻が二人もいること
イ 狐にまんまと化かされてしまったこと
ウ 狐が家の中に入り込んできたこと
エ 自分の妻の顔を忘れてしまったこと

問四 〈文脈〉 —— 線④「我をばかくはするぞ」とありますが、夫にどうされそうになったのですか。現代語で書きなさい。

問五 〈指示語〉 —— 線⑤「それ」が指している言葉を古文中から十字で書き抜きなさい。

Blank box for writing the answer to Question 5.

*8 二人の妻を捕へて……あらはれなまし 二人の妻をつかまえてしぱりつけておいたら、最後には正体を現したるうに。

*9 見のしりける 見て大騒ぎした。 *10 益なき 無駄な。
*11 希有の命を生きて 命からがら。 *12 希有に ころうじて。

問一 〈文脈〉 結局、狐だったのはだれですか。古文中の……線ア、エから選び、記号で答えなさい。

問二 〈かなづかい〉 —— 線部「つひにはあらはれなまし」を、現代かなづかいに直して書きなさい。

問三 〈内容理解〉 作者は、夫をどんな人物だと評していますか。古文中から書き抜きなさい。

問四 〈内容理解〉 作者は、夫は具体的にどのような行動すべきだったと考えられていますか。現代語で二十字以内で書きなさい。

Blank box for writing the answer to Question 4.

- ⑪ 先生の家をタズねる。
⑫ ついにマクが開いた。
⑬ 机の上がランザツだ。
⑭ ウラオモテがない人だ。
⑮ カクダイコピーをとる。

練習問題2

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。
 公世の二位のせうとに、良覚僧正と聞えしは、極めて腹あしき人なりけり。
 *3 坊の傍に、大きな榎の木ありければ、人、「榎木僧正」とぞ言ひける。こ
 の名然るべからずとて、かの木を伐られにけり。その根のありければ、「きりく
 ひの僧正」と言ひけり。いよいよ腹立ちて、きりくひを掘り捨てたりければ、
 *4 その跡大きな堀にてありければ、「堀池僧正」とぞ言ひける。
 (兼好法師 『徒然草』)

*1 公世の二位＝藤原公世。鎌倉時代末期の人。
 *2 せうと＝兄弟。 *3 坊＝僧侶の住居。
 *4 きりくひ＝切り株。

問一 〈内容理解〉 良覚僧正のあだ名を古文中からすべて書き抜きなさい。

問二 〈現代語訳〉 線①「聞えし」の現代語訳として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア うわさされる イ 申し上げていた
 ウ 聞こえていた エ 名のついていた

問三 〈係り結び〉 線②「言ひける」は、線⑤「言ひけり」と形が違
 いますが、これは、線②より前の文中に、ある言葉があるためです。
 その言葉をひらがな一字で書き抜きなさい。

問四 〈現代語訳〉 線③「然るべからず」の現代語訳として最も適切なもの
 のを次のうちから選び、記号で答えなさい。

B 埋もれぬ名を長き世に残さんこそ、あらまほしかるべけれ、位高く、やん
 ごとなきをしも、すぐれたる人とやはいふべき。愚かにつたなき人も、家に
 生れ、時に逢へば、高き位に昇り、奢を極むるもあり。いみじかりし賢人・
 聖人、みづから賤しき位に居り、時に逢はずしてやみぬる、また多し。偏に
 高き官・位を望むも、次に愚かなり。
 (兼好法師 『徒然草』)

- *1 名利に使はれて＝名譽と利益に追い立てられて。
- *2 まどし＝おろそかだ。 *3 買ひ＝受け。
- *4 累＝苦勞。めんどう。 *5 身の後＝死後。
- *6 金をして北斗を柱ふとも＝金を積み上げて北斗七星を支えるほどであっても。
- *7 人＝ここでは子孫。 *8 あぢきなし＝かいががない。
- *9 うたて＝ますます。 *10 すぐれて＝きわめて。
- *11 あらまほしかるべけれ＝望ましいことだろう。
- *12 やんごとなき＝高貴な。 *13 つたなき＝未熟な。
- *14 奢＝思い上がり。ぜいたく。 *15 いみじかりし＝すぐれた。
- *16 賤しき位＝低い地位。
- *17 やみぬる＝一生を終えてしまう(人)。 *18 偏に＝むやみに。

問一 〈現代語訳〉 線①「閑かなる」の現代語訳として最も適切なものを
 次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア のんきに暮らす イ だまつている
 ウ 心を落ち着ける エ 気落ちする

問二 〈文脈〉 線②「愚かなる人」と対照的な人物を表す言葉を、Aの段
 落の中から書き抜きなさい。

ア 怒ってはならない イ よろしくない
 ウ 本名と全然ちがう エ びつたりである

問五 〈動作主〉 線④「かの木を伐られにけり」とありますが、木を伐つ
 たのはだれですか。古文中の線⑦⑧のうちから選び、記号で答えな
 さい。

問六 〈文脈〉 線⑥「いよいよ腹立ちて」とありますが、なぜ腹を立てた
 のですか。現代語で書きなさい。

問七 〈文脈〉 線⑦「その跡」とありますが、何をどうしてできた跡です
 か。現代語で書きなさい。

問八 〈内容理解〉 良覚僧正は、「極めて腹あしき人」とされていますが、こ
 の文章から考えると、「腹あしき人」とはどのような人だということになり
 ますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア 怒りっぽい人 イ 腹黒い人
 ウ 謙虚な人 エ 気の弱い人

2 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。
 *1 名利に使はれて、閑かなる暇なく、一生を苦しむるこそ、愚かなれ。
 A 財多ければ、身を守るにまどし。害を買ひ、累を招く媒なり。身の後には、
 *6 金をして北斗を柱ふとも、人のためにぞわづらはるべき。愚かなる人の目を
 よろこばしむる楽しみ、またあぢきなし。大きな車、肥えたる馬、金玉の
 飾りも、心あらん人は、うたて、愚かなりとぞ見るべき。金は山に棄て、玉

問三 〈内容理解〉 Aの段落で述べられている愚かなることを現代語で書きなさい。
 い。

問四 〈文脈〉 問三のことを「愚か」と言うのはなぜですか。最も適切なもの
 を次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア 一生のうちに使うのには限界があるから。
 イ いろいろの利害がからんできてわずらわしいから。
 ウ 一生働きつめでは少しも楽しくないから。
 エ 死んでしまったら何の役にも立たないから。

問五 〈内容理解〉 線③「時」、④「時」のここでの意味として最も適切な
 ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア 時間 イ 時勢
 ウ 当時 エ 時事

問六 〈内容理解〉 Bの段落で述べられている愚かなることを現代語で書きなさい。
 い。

問七 〈文脈〉 問六のことを「愚か」と言うのはなぜですか。最も適切なもの
 を次のうちから選び、記号で答えなさい。
 ア 望みがなくなっても、実際には名を残せるとは限らないから。
 イ 自分では何の努力もせずに、望みだけは高くしているから。
 ウ 望みをかなえるためには、一生苦勞しなければならぬから。
 エ 自分の力ではどうにもならないことを望んでいるから。

文法 活用のある自立語1 (動詞)

◆動詞の性質と働き

物事の動作・作用・存在を表し、さまざまな文の成分になる。

◆活用の種類

- (1) 五段活用……五十音図の五つの段にわたる活用。
例 読まない／読むう・読みます・読む・読むとき・読めば・読め
- (2) 上一段活用……五十音図のイ段だけで活用する活用。
例 起さない・起さます・起さる・起さるとき・起されば・起さろ
- (3) 下一段活用……五十音図のエ段だけで活用する活用。
例 分けない・分けます・分ける・分けるとき・分ければ・分けろ
- (4) カ行変格活用……カ行で活用する規則的でない活用。「来る」「一語」
例 来こない・来こます・来こる・来こるとき・来これば・来ころ
- (5) サ行変格活用……サ行で活用する規則的でない活用。「する」と「する」の形の動詞。
例 しらない／しらす／しらない・しらます・しらる・しらるとき・しられば・しらる／しらよ

1 次の文章から動詞をそのままの形ですべて書き抜きなさい。また、その種類をアのアーウから選び、それぞれ記号で答えなさい。

パースデーケーキのろうそくの火を消すと、拍手が起きた。ケーキを切って、みんなで食べた。弟は、口の周りにクリームをつけている。わたしが弟に「誕生日おめでとう」と言うと、弟は、笑顔を見せてくれた。

- ア 他動詞
- イ 自動詞
- ウ 補助動詞

- (1) 食べる
- (2) 行く
- (3) 見る
- (4) 死ぬ
- (5) 売る
- (6) 話す
- (7) 歩く
- (8) 日が暮れて寒い。
- (9) 話もせずに帰った。

2 次の動詞のうち、可能動詞が作れるものはその可能動詞を書き、作れないものは×を書きなさい。

3 次の——線部の動詞の、活用の種類と活用形を順に書きなさい。

- (1) 文を書く。
- (2) 名前を覚えた。
- (3) だれも来ない。
- (4) 着る服がない。
- (5) 早く電話しろ。
- (6) 行けばわかる。
- (7) 歩ける人は歩け。
- (8) 日が暮れて寒い。
- (9) 話もせずに帰った。

9 説明的文章の読み方・解き方

例題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ヨーロッパでもアメリカでも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちよつと名のある庭園に行けば、噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群が庭をぎっしりと埋めつくしていた。樹木も草花もここではそえものにすぎず、壮大な水の造型が轟きながら林立しているのに私は息をのんだ。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとばしるというよりは、音をたてて空間に静止しているように見えた。

そういうことをふと考えさせるほど、日本の伝統のなかに噴水というものはない。せせらぎを作り、滝をかけ、池を掘って水を見ることはあれほど好んだ日本人が、噴水の美だけは近代にいたるまで忘れていた。伝統は恐ろしいもので現代の都会でも、日本の噴水はやはり西洋のものほど美しくない。そのせいか東京でも大阪でも、町の広場はどこもなく間が抜けて、表情に乏しいのである。

西洋の空気は乾いていて、ひとびとが噴きあげる水を求めたということもあるだろう。ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であったということも考えられる。だが、人工的な滝を作った日本人が、噴水を作らなかつた理由は、そういう外面的な事情ばかりではなかつたように思われる。日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじまげたり、粘土のように造型する対象ではなかつたのであろう。

いうまでもなく、水にはそれじたいとして定まったかたちはない。そうして、かたがたがないということについて、おそらく日本人は西洋人とちがった独特の好みを持っていたのである。

(山崎正和「混沌からの表現」)

読解▼論理の展開をとらえて、筆者の意見と意見の理由を理解する。文法▼活用のある自立語2 (形容詞・形容動詞)

問——線部「日本の伝統のなかに噴水というものはない」とありますが、その理由として筆者はどんなことを挙げていますか。(1)外面的な理由と、(2)内面的な理由に分けて書きなさい。

- (1)
- (2)

◆論理の展開をとらえる

説明的文章は、論理の展開をとらえながら読むことが大切です。そのためには、接続語と指示語に注目するとよいでしょう。接続語によって文と文、段落と段落がどんな関係でつながっているかをとらえ、筆者がどのように論理を展開しているかをとらえます。また、指示語の指す内容を正確につかみ、述べられている内容を把握することが重要です。

◆意見の理由を理解する

説明的文章、特に論説文は意見を述べるための文章です。意見の理由をとらえることは、説明的文章の読み取りでは欠かせません。

ここでは、まず17行目の「そういう外面的な事情」に着目します。「そういう」の指示内容が、(1)「外面的な理由」の手がかりです。(2)「内面的」という言葉は文中にはないので、「外面的」との対比でとらえます。16～17行目に「だが、……そういう外面的な事情ばかりではなかつた」とあるので、「内面的な事情(理由)」は、続く文で述べられていると判断できます。

文法 活用のある自立語②(形容詞・形容動詞)

◆形容詞の性質と働き

「美しい・楽しい」のように、物事についての「どんなだ」という状態や性質を表し、さまざまな文の成分になる。

*補助形容詞(形式形容詞)……形容詞本来の意味が薄れ、補足的に用いられる形容詞。例 冷めていておいしく**ない**。

◆形容詞の活用

命令形はない。「ない」は連用形に続く。

例 よかろう・よかつた／よくない・よい・よいとき・よければ

◆形容動詞の性質と働き

「静かだ(です)・きれいだ(です)」のように、物事についての「どんなだ」という状態や性質を表し、さまざまな文の成分になる。

◆形容動詞の活用

命令形はない。「ない」は連用形に続く。

例 静か**だ**ろう・静か**だ**つた／静か**で**ない／静か**に**なる・静か**か**らば
静か**な**とき・静か**な**らば

1 次の文章から形容詞をそのままの形ですべて書き抜きなさい。

今朝は、眠**か**つたが、早く起きた。野球部の朝練習があるのだ。あまり食べたくないけれど、食事**を**することに**した**。大きなおにぎりに黒いのりを巻いて食**べ**ると、意外**に**おいしいので驚**い**た。時間**が**ないので、急**いで**家**を**出**た**。

2 次の——線部の形容詞の活用形を書きなさい。

- (1) 寒**か**ろう
- (2) 暑**く**ない
- (3) 痛**か**つた
- (4) 高**い**山
- (5) 楽**し**く過**ご**す
- (6) 涼**し**ければ

3 次の形容詞に「ございます」が続く場合の語形を書きなさい。

- (1) は**や**い
- (2) 悲**し**い

4 次の文章から形容動詞をそのままの形ですべて書き抜きなさい。

にぎやかな商店街を過ぎると、急にひっそりとした住宅街になった。夜は、さぞかし寂**さび**しかろうと思**つ**た。しかし、穏**おだ**やか**だ**つたのはほんの**一瞬**で、元氣**が**よか**ま**しい**く**らいの活動的な子ども**の**声**が**聞**こ**えた。

5 次の——線部の形容動詞の活用形を書きなさい。

- (1) 重要**で**ない
- (2) 華**は**やか**だ**つた
- (3) 貴重**だ**ろう
- (4) 朗**ほ**らかに歌**う**
- (5) 明**あ**ら**か**ならば
- (6) おし**や**れ**な**人

10 文学的文章の読み方・解き方

例題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

雨が降**つ**た日は必ず、じいちゃんが学校**ま**で迎**む**えに**来**てくれた。

「**弁**当**忘**れても傘**忘**れるな。」て、いつ**も**言う**と**るの**に**よ。」

下駄箱**の**前**で**待**っ**て**い**ると、じいちゃん**は**いつ**も**そう**言**い**な**が**ら**、オレ**の**黄**い**傘**を**差**し**出**し**て**く**れた。

「給食**あ**る**か**ら、弁当**い**ら**ね**ー**も**ん。」

舌**を**出**し**な**が**ら、オレ**は**それ**を**受**け**取**る**。

「ま**っ**た**く**コイツ**は**あ。」

じいちゃんは顔**の**シワ**を**総動員**し**て「カカカ」と笑**っ**た。

小学校**か**ら家**ま**では一キロ**く**らいの距離**で**、大通り**を**ひ**と**つ**そ**れる**と**も**う**、店**は**ほと**ん**ど**な**い。*****国鉄**の**官舎**を**通**り**抜**け**た**後**、小**さ**な山**の**斜面**を**右**手**に**見**な**が**ら、10

畑**や**民家**が**途**切**れ**途**切**れ**に並**ぶ**道**を**ラ**ン**ド**セ**ル**を**背**負**つ**て**延**々**歩**か**な**け**れば**な**ら**な**い。鬱蒼**と**茂**る**木々**の**せい**で**、その**辺**り**は**晴**れ**た日**の**昼間**で**も日陰**に**な**っ**て**い**た。たま**に**帰**り**が一人**に**な**っ**た時**な**ん**か**は退屈**だ**し、ち**よ**つ**と**だ**け**怖**か**つ**た**。

けど、じいちゃんと一緒**に**歩**く**雨**の**日は、おん**な**じ道**の**景色**が**が**ら**り**と**変**わ**つ**た**。た**と**え**ば**、空**き**地**に**捨**て**ら**れ**た**ま**ま**の**洗濯機**。フ**タ**の**ない洗濯槽**に**雨**水**15

がた**ま**り、ど**こ**か**ら**来**た**か**わ**か**ら**ないア**メ**ン**ボ**が**ふ**わ**ふ**わ**と**泳**い**で**い**る**の**を**オ**レ**は**爪先**立**ち**に**な**っ**て覗**き**込**ん**だ。観**察**し**な**け**れ**ば**な**ら**な**い**も**の**は**、次**か**ら次**へ**と姿**を**現**し**た。土**か**ら這**い**出**て**き**て**ふ**や**けたミ**ミ**ズ**や**、タイ**ヤ**跡**の**水**た**ま**り**

に浮**か**ぶ油**の**虹**。**

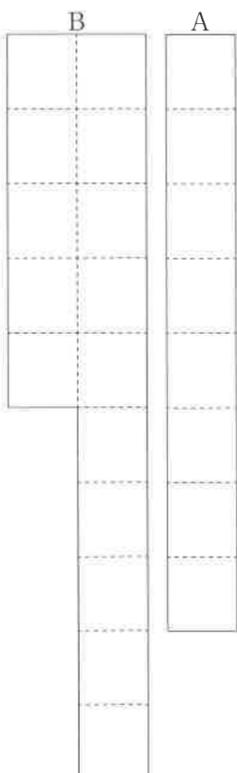
そ**う**い**う**の**を**見**つ**け**る**た**び**、オレ**は**駆**け**寄**っ**て棒**の**先**で**突**っ**つ**い**て**み**た**り**、20

* 国鉄＝旧日本国**有**鉄道**の**略称。現在**の**J**R**。

(日向**蓬**『糸**ト**ン**ボ**』)

ねらい 読解▼場面の様子や言動をとらえ、人物の心情を理解する。言語▼ことわざ

問 ——線部「おんなじ道の景色ががらりと変わった」とありますが、どのように変わったのかをまとめた次の文の□ A・B にはまる言葉を、A は八字以内で書き、B は「興味」という言葉を使って十五字以内で書きなさい。
「オレ」が一人で帰る時の、□ A 道の景色から、□ B 道の景色へと、変わった。



◆場面の様子をとらえる

文学的文章では、場面・言動・心情のかかわりを読み取ることが大切です。どんな場面**で**、どんな言動**を**し、どんな心情**で**いる**か**を別々に読み取**る**のではなく、それぞれがどの**よ**う**に**か**か**わり合**う**かを総合的にとら**え**ます。ここでは、一人**で**帰**る**時、じいちゃん**と**帰**る**時**と**いう場面**の**変化**が**、「オレ」の行動**や**心情**に**どんな変化**を**もた**ら**し**て**いる**か**を読み取**り**ます。

◆言動をとらえ、心情を理解する

人物の心情は言動**に**表**れ**ます。どんな言動**が**、どんな心情**を**表**し**て**い**るかを読み取**り**ます。心情**の**理由**は**言動**に**あり、言動**の**理由**は**心情**に**あります。ここでは、じいちゃん**と**帰**る**時の「オレ」の行動**に**表**れ**た心情**が**、「興味」という言葉**を**使**っ**てどの**よ**う**に**説明**で**きる**か**を考**え**ま**し**ょう。

文法 助詞①

◆助詞の性質と働き
助詞は、付属語で活用がなく、他の語や語句に付いて、語句と語句の関係を示したり、いろいろな意味を添えたりする語である。

◆助詞の種類

助詞は、働きの違いによって、四種類に分類できる。

(1) 格助詞……主に体言に付いて、文節と文節の関係を示す。

例 犬がほえる。母の眼鏡。学校から帰る。昨日より寒い。

(2) 接統助詞……主に活用する語句に付いて、前後をつなぐ。次のような接続の仕方がある。

① 順接の仮定……ば・と ② 順接の確定……から・ので・ば・と・て

③ 逆接の仮定……ても(でも)・と・ところ

④ 逆接の確定……が・けれど・けれども・のに・ても(でも)・て

⑤ 前置き……が・けれど・けれども ⑥ 動作の並行……ながら・つつ

⑦ 並立……が・ば・し・たり・て ⑧ 補助の関係……て

例 寒いから服を着る。春になると桜が咲く。暑いし湿気もある。

(3) 副助詞……いろいろな語句に付いて、限定・強調・類推などのさまざまな意味を付け加える。

例 父は弁護士だ。母も行く。姉まで笑った。一つしかない。

(4) 終助詞……文や文節の終わりに付いて、話し手・書き手の気持ちや意志、態度を表す。

例 か・なあ・な・かしら・ぞ・わ・とも・や・ぜ・ねえ など。

例 今日(あ)は休み(か)。僕(ぼく)も行きたい(なあ)。さあ、帰る(ぞ)。

1 次の各文から、助詞をすべて書き抜きなさい。

(1) 弟が窓から顔を出した。

(2) 姉は飛行機で北海道に行った。

(3) ドーナツを一つだけ食べた。

(4) 今日は休みなのに、朝から雨が降ったから、どこへも行けないなあ。

2 次の() 線部の助詞の種類をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 姉の電卓を半年ほど借りたままだ。

(2) 四時間も勉強をしていたので、少し休みたいよ。

(3) テレビを見ながら勉強をしても、頭になんか入らない。

(4) 高校生にさえ解けない問題だから、僕や君には解けないよ。

ア 格助詞 イ 接統助詞 ウ 副助詞 エ 終助詞

(1) ① () ② () ③ () ④ ()

3 次の() にはあてはまる接統助詞をあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

(1) 今回は負けてしまった()、次回は同じ結果にはさせない。

(2) 朝日がのぼる()、鳥たちが鳴きだした。

(3) テストの点数がよかった()、母は機嫌がよかった。

(4) 今日の試合に勝ったとし()、予選は突破できない。

アと イが ウし エので オのに カても

(1) () (2) () (3) () (4) ()

18 文学的文章(2)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

打上花火の音は、竹筒に火薬を詰めて、空に打ち上げ、雨乞いや疫病を祓うため、神に祈願したことから起こったものだという。まだ花火の美しさとは無縁の、大きな音と高く飛ぶことの競い合いだったかもしれない。いつのころからか火薬を巧みに調合して、光に色を加え、空いっぱいを彩る見事な花に仕上げたのだ。

それでも打上花火の音の大きさは、日常の音からかけ離れた大きさである。近くにいれば火薬の爆発による振動はしんとみぞおちに響く。三つくらいいると、花火を見に連れて行かれた。遠くで、どーんとなっているうちはよかつたが、近づくにつれてその音のすさまじさ、足が動けない。もつと前に行かなければ見られないと言われても、恐くて我慢できず泣き出してしまつた。他の人たちは花火を見に行き、私だけは付き添いの人に連れられて家へ帰された。どんなに綺麗なものと、話されるたびに楽しみにしたのに、その悲しさがつまらなさ、だが我慢できない恐怖感を身にしみて覚えた。

それからというもの、花火は線香花火一本ばかり、その線香花火でさえ、火がついた火薬がじぶじぶいはいはじめると、こよりの先を持っていられない。母は私に割りばしを持たせ先の方に花火のこよりを差し込んでくれた。随分、臆病な子供だったのだ。それでも火薬が燃えて赤い火の玉ができ、輝く赤い光のレース状の花がばらばらりと闇に浮く美しさは何とも言えない。玉はひと花ごとにやせてゆき、周りに小さな光を弾き出して、ついに細い糸がすいすい流れる柳に変わる。その細い光の流れ落ちる先に、こちらの目も吸い込まれ、手元の光も目を閉じるように消える。子供の遊びとけなされるが、線香花火は、あのわずかひとすくいの黒い粉が見せる、光の繊細な美しさ面白さは、花火の原点ではないかと思う。

(青木玉『上り坂下り坂』)

読解 5~8・10単元の内容を確認しておきましょう。

問一 〈場面・語句〉 () にはあてはまる言葉として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 地に着かず イ 棒になって ウ かじかんで エ すくんで

問二 〈場面〉 線①「悲しがつまらなさ」とありますが、どのようなことを悲しくつまらないと感じたのですか。そのことを説明した次の文の()

A・Bにあてはまる言葉を、Aは二十文字以上二十五文字以内、Bは二十五文字以上三十文字以内で書きなさい。

(A) () のに、(B) ()、自分だけ家へ帰されたこと。

Grid for writing answers to questions 1 and 2.

問三 〈表現〉 線②「光の繊細な美しさ面白さ」とありますが、その様子の描写と自分の感想を、筆者は連続する三つの文で表現しています。文中からそれらの文を探し、その初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

Grid for writing answers to question 3.

文法 助詞2

◆格助詞の働き：次のような五つの働きがある。

- (1) 主語を示す：が・の 例 母が笑う。 父の作る料理。
- (2) 連体修飾語を示す：の 例 父の本。 机の上。
- (3) 連用修飾語を示す：を・に・へ・と・から・より・で 例 本を読む。 学校に行く。 友人と遊ぶ。 家から遠い。
- (4) 並立の関係を示す：と・や・の・に 例 兄と姉。 パンに牛乳。
- (5) 体言の代用を示す：の 例 パソコンは兄の机を借りる。

◆格助詞の意味：連用修飾語を示す格助詞は次のような意味を表す。

- ① を：対象(魚を釣る)。 起点(日本を発つ)。 場所・時間など。
- ② に：相手(友達に話す)。 帰着点(東京に着く)。 場所・目的など。
- ③ へ：方向(駅へ向かう)。 帰着点(家へ着く)。
- ④ と：引用(「はい」と答える)。 結果(完成となる)。 対象・相手など。
- ⑤ から：起点(枝から落ちる)。 原因/理由(雨だから家にいる)。
- ⑥ より：比較の基準(自転車より速い)。 限定(これより方法はない)。
- ⑦ で：材料(木で作る)。 場所(駅前で会う)。 原因/理由など。

◆副助詞の意味：複数の意味を表すものに注意する。

- ① は：対比(紅茶は好きじゃない)。 強調(泣きはしない)。
- ② も：他に同類がある(英語も得意だ)。 強調(五個も食べた)。 並立(までも)。 極端な例(子どもにまで笑われる)。
- ③ まで：極端な例(小学生でも解ける)。 例示(映画でも見るか)。
- ④ でも：極端な例(水さえない)。 限定(パソコンさえあればよい)。
- ⑤ さえ：極端な例(何やら企んでいる)。 並立(いやら机やらを置く)。
- ⑥ やら：不確か(何やら企んでいる)。 並立(いやら机やらを置く)。
- ⑦ ばかり：程度(三日ばかり休む)。 限定(お菓子ばかり食べる)。

直後(いま起きたばかりだ)。

19 詩歌

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

未確認飛行物体

入沢康夫

薬缶だつて、
空を飛ばないとはいかぎらない。

水のいつぱい入った薬缶が
夜ごと、こつそり台所をぬけ出し、
町の上を、
畑の上を、また、つぎの町の上を
心もち身をかしげて、
一生けんめいに飛んで行く。

天の河の下、渡りの雁の列の下、
人工衛星の弧の下を、
息せき切つて、飛んで、飛んで、
（でももちろん、そんなに早かないんだ）
そのあげく、
砂漠のまん中に一輪咲いた淋しい花、
大好きなその白い花に、
水をみんなやつて戻つて来る。

1 次の——線部「と」のうちから格助詞をすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 春になると気分がはなやいでくる。
- イ 彼の到着は午後五時ごろになるという。
- ウ 君と僕以外にはだれも来ないのかい。
- エ 何が起ころうとかまうもんか。

2 次の各組の——線部の言葉のうち、他と意味・用法の異なるものを一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1)
 - ア そんなことをしたのは彼女が初めてだ。
 - イ 緑色のかばんがあります。
 - ウ あちらにあるのがあなたのラケットです。
 - エ 申し込んだのだが断られた。
- (2)
 - ア 十五人から団体割引になる。
 - イ 熱があつたから出かけられなかった。
 - ウ 病気だとわかってから父は元気がない。
 - エ うそから出たまこと。
- (3)
 - ア この本もあまり役には立たない。
 - イ スイカもうりの仲間だ。
 - ウ ここまで来るのに二時間もかかった。
 - エ そういうときにも使えます。
- (4)
 - ア プロの選手でもミスはする。
 - イ ひまなので散歩でもするとしよう。
 - ウ 父は夏でも熱いうどんを好む。
 - エ 犬でも三日飼えば思はずれなない。
- (5)
 - ア 文句ばかり言つてないで手伝いなさい。
 - イ 海外を十日ばかり旅行してきた。
 - ウ 修理には一万円ばかりかかるといわれた。
 - エ ジュースを五本ばかり買ってきてくれ。

ねらい

読解 11・12単元の内容を確認しておきましょう。
言語 類義語

問一 〈詩の分類〉 この詩の分類として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 口語自由詩
- イ 口語定型詩
- ウ 文語自由詩
- エ 文語定型詩

問二 〈内容理解〉 この詩で「未確認飛行物体」にあたるものは何ですか。詩の中から書き抜きなさい。

問三 〈表現〉 ——線①「心もち身をかしげて」とありますが、これは薬缶のどんな様子を表していますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 頼りなげな様子
- イ 楽しそうな様子
- ウ 重たそうな様子
- エ 古そうな様子

問四 〈表現〉 ——線②「でももちろん、そんなに早かないんだ」から受ける感じとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア ユーモア
- イ 軽蔑
- ウ 皮肉
- エ 安心

問五 〈鑑賞〉 夜ごと、薬缶が一生けんめいに飛んで行くのは何のためですか。

表現にこめられた作者の意図をつかむための単元。作者は、比喩や象徴的な表現などのさまざまな表現上の工夫をこらして、場面の様子や人物の心情を伝えようとする。作者の意図を考えながら読むようにする。また、それらの工夫に見られる表現上の特徴をとらえるようにする。

P 41

〔例題〕

1 問一 イ 問二 ア

解説

問一 前に「あ、ああ、聞こえたー」とあることに着目する。やっと、ラジオから音が聞こえたのである。求めていたものが、やっと手に入ったという状況を想像してみよう。ラジオからの音は、貴重な尊いものと感じられたにちがいない。「天から声が降ってくる」という表現は、与えられたありがたきもの、という意味を表現している。また、14〜15行目に「なにかとてつもない発見をしたような興奮」とあり、この表現も、手に入れたいものを手に入れた、ということを表している。
問二 語注に「暗々、明るく輝くさま」とあるのがヒントになる。明るく照っている月は、どんな印象を与えるだろうか。「科学者になるのも悪くないなあ」と、将来への希望を抱いた「私」を明るく照らす月が空にある情景を考えてみよう。

P 42

〔練習問題1〕

1 問一 (わたしが) まるではあちゃんと一緒に青い海の底深く潜っていくような錯覚に陥っていること

解説

問一 「自分が潜っているわけじゃないのに」とあることに着目する。実際には潜っていないのに、潜っているような気分になったというところで、つまり「錯覚」である。それを、「まるで……ような錯覚」と表現している部分を使って解答にまとめればよい。
問二 「水中に身を沈めたとたん、ばあちゃんの曲がっていた腰がすつと伸びた」様子を「まるで魔法だ」と感じ、その優雅に泳ぐ姿を「人魚」のようだと感じている。
問三 「まるでワカメの林のような」と言い換えることができる。ワカメが海底で林のようになっている、つまり、ワカメがたくさん生えているのである。
問四 「わたし」が発見した「すごいこと」とは、直前の「人は心が何かでいっぱいだと

うか」と言ってくれたのがうれしく、また、得意な気持ちになったのである。

問八 文章全体が「わたし」の視点で描かれている。また、比喩などの表現技法は多用されておらず、出来事が淡々と描かれている。

P 46

〔活用のない自立語2〕

1 北海道・イ 十月・ウ 雪・ア こと・エ 札幌・イ 人・ア 南・ア

地方・ア わたし・オ 想像・ア 十二歳・ウ 思い・ア

2 (1) ウ (2) エ (3) ア (4) オ (5) カ (6) イ

エ (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

3 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

4 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

5 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

6 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

7 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

8 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

9 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

10 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

11 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

12 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

13 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

14 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

15 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

16 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

17 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

18 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

19 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

20 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

21 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

22 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

23 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

24 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

25 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

26 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

27 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

28 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

29 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

30 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

31 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

32 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

33 (1) ○ (2) × (3) × (4) ○

P 43

〔漢字の読み書き1〕

① せんい ② かたまり ③ ゆる ④ かた ⑤ こうがい ⑥ けず

⑦ たまわ ⑧ ようしゃ ⑨ ひた ⑩ つつし ⑪ 暮 ⑫ 郵便局

⑬ 勤 ⑭ 提供 ⑮ 困難

⑯ 勤 ⑰ 提供 ⑱ 困難

⑳ 勤 ㉑ 提供 ㉒ 困難

㉓ 勤 ㉔ 提供 ㉕ 困難

㉖ 勤 ㉗ 提供 ㉘ 困難

㉙ 勤 ㉚ 提供 ㉛ 困難

㉜ 勤 ㉝ 提供 ㉞ 困難

㉟ 勤 ㊱ 提供 ㊲ 困難

㊳ 勤 ㊴ 提供 ㊵ 困難

㊶ 勤 ㊷ 提供 ㊸ 困難

㊹ 勤 ㊺ 提供 ㊻ 困難

㊼ 勤 ㊽ 提供 ㊾ 困難

㊿ 勤 ㋀ 提供 ㋁ 困難

㋂ 勤 ㋃ 提供 ㋄ 困難

㋅ 勤 ㋆ 提供 ㋇ 困難

㋈ 勤 ㋉ 提供 ㋊ 困難

㋋ 勤 ㋌ 提供 ㋍ 困難

㋎ 勤 ㋏ 提供 ㋐ 困難

㋑ 勤 ㋒ 提供 ㋓ 困難

㋔ 勤 ㋕ 提供 ㋖ 困難

㋗ 勤 ㋘ 提供 ㋙ 困難

㋚ 勤 ㋛ 提供 ㋜ 困難

㋝ 勤 ㋞ 提供 ㋟ 困難

㋠ 勤 ㋡ 提供 ㋢ 困難

㋣ 勤 ㋤ 提供 ㋥ 困難

㋦ 勤 ㋧ 提供 ㋨ 困難

㋩ 勤 ㋪ 提供 ㋫ 困難

㋬ 勤 ㋭ 提供 ㋮ 困難

㋯ 勤 ㋰ 提供 ㋱ 困難

㋲ 勤 ㋳ 提供 ㋴ 困難

㋵ 勤 ㋶ 提供 ㋷ 困難

㋸ 勤 ㋹ 提供 ㋺ 困難

㋻ 勤 ㋼ 提供 ㋽ 困難

㋾ 勤 ㋿ 提供 ㌀ 困難

㌁ 勤 ㌂ 提供 ㌃ 困難

㌄ 勤 ㌅ 提供 ㌆ 困難

㌇ 勤 ㌈ 提供 ㌉ 困難

㌊ 勤 ㌋ 提供 ㌌ 困難

㌍ 勤 ㌎ 提供 ㌏ 困難

㌐ 勤 ㌑ 提供 ㌒ 困難

㌓ 勤 ㌔ 提供 ㌕ 困難

㌖ 勤 ㌗ 提供 ㌘ 困難

㌙ 勤 ㌚ 提供 ㌛ 困難

㌜ 勤 ㌝ 提供 ㌞ 困難

㌟ 勤 ㌠ 提供 ㌡ 困難

㌢ 勤 ㌣ 提供 ㌤ 困難

㌦ 勤 ㌧ 提供 ㌨ 困難

㌩ 勤 ㌪ 提供 ㌫ 困難

㌭ 勤 ㌮ 提供 ㌯ 困難

㌱ 勤 ㌲ 提供 ㌳ 困難

㌵ 勤 ㌶ 提供 ㌷ 困難

㌹ 勤 ㌺ 提供 ㌻ 困難

㌽ 勤 ㌾ 提供 ㌿ 困難

㍁ 勤 ㍂ 提供 ㍃ 困難

㍅ 勤 ㍆ 提供 ㍇ 困難

㍉ 勤 ㍊ 提供 ㍋ 困難

㍍ 勤 ㍎ 提供 ㍏ 困難

㍑ 勤 ㍒ 提供 ㍓ 困難

㍕ 勤 ㍖ 提供 ㍗ 困難

㍙ 勤 ㍚ 提供 ㍛ 困難

㍝ 勤 ㍞ 提供 ㍟ 困難

㍿ 勤 ㎀ 提供 ㎁ 困難

㎃ 勤 ㎄ 提供 ㎅ 困難

㎇ 勤 ㎈ 提供 ㎉ 困難

㎋ 勤 ㎌ 提供 ㎍ 困難

㎏ 勤 ㎐ 提供 ㎑ 困難

㎓ 勤 ㎔ 提供 ㎕ 困難

㎗ 勤 ㎘ 提供 ㎙ 困難

……さみしいなんて感じるひまなんだ」ということ。そのことを発見した気がして「わたし」は感激しているのである。

〔練習問題2〕

1 問一 ウ 問二 わたしはず

問三 (1) 祖母が大変あわててつくった弁当

(2) 祖母が箸を入れ忘れていたこと

問四 多くのものの中から適当なものを探すこと

問五 エ 問六 イ

問七 姉が、自分の作った箸を喜んでくれたから。

問八 ア

問九

問一 「帰りのケーブルカーとすれ違う」ということは、「わたし」と弟は山のふもとから山頂に向かっていくということである。すると、ケーブルカーの窓から見える風景はどう変化してくるかを考えよう。「空の分量が占められてくる」とは、見えている山の部分が減ってきて、空の占める部分が増えてくるということである。

問二 ① 線②には、山頂では足元の地面の部分が減って空の部分が増えてくるように感じ、恐怖感を抱いている「わたし」の心情が表現されている。同様に、足を踏みはずすように感じて、怖くて崖の近くに寄れない「わたし」の様子を表現したのが解答の一文である。

問三 (1) 【】の段落で表現されていることは、祖母の不器用さと、祖母が弁当を「大変あわててつくった」、「急いでいた」ということである。

(2) 祖母が「大変あわててつくった」弁当であることを最もよく物語っているのは、食事には欠かすことのできない「かんじんの箸を入れ忘れていた」ことである。

箸が入っていないことから、それほど祖母はあわてていたのだと「わたし」は悟ったのである。

問四 箸をつくるために取った行動であることもあわせて考える。

問五 「こんどはほんとうに」という表現によって、さっきは食べようと思ったのに食べられなかったということが言外に示されている。

問六 「口へ運ぶたびに木のかすかな匂いがした」という表現に着目する。弟がつくってくれたばかりの箸を使いながら、「わたし」は、箸をつくっているときの弟の丁寧さ、慎重さを思い、その気持ちなども考えて、箸に愛着がわいてきたと考えられる。

問七 急場をしのぐためにつくった、捨てるつもりでいた箸を、「わたし」が「持って帰る

文学的文章で、筆者（作者）が最も伝えたいと思っている事柄である主題をつかむための単元。

随筆と小説とは主題の読み取り方に違いがあるので、次のポイントに注意する。

① 随筆の場合は、どんなことについて書かれているかという話題をとらえ、それについて筆者がどのような感想・意見・思いを抱いているかをとらえる。

② 小説の場合は、人物の行動や心情とからめて主題が表現されることが多いので、行動や心情に託された作者の思いをとらえる。

P 47

〔例題〕

1 問一 子供のころの土埃の風の思い出（について） 問二 ア

〔解説〕

問一 土埃の風がどのように吹き、どんな害をもたらし、どのように受け止められていたかについて、子供の自分がどうとらえていたかという視点で描いている。

問二 主題は、話題と密接にかかわる。子供のころの思い出を通して、筆者は、土埃の風が吹く栃木という土地の風土・季節感を描いているのである。

P 48

〔練習問題1〕

1 問一 エ 問二 ウ 問三 実際にこの 問四 イ 問五 これからも

〔解説〕

問一 「百聞は一見にしかず」は、「何回も人から聞くより、一回自分の目で見て確かめるほうがよくわかる」ということ。

問二 この場合の「私的收穫」は、「私的な感慨や発見」と同じことである。自分の知る雪と、下北の雪のちがいを発見したのである。

問三 「雪の描写はとんでもないことになってきたらう」とあるので、どのように書くおそれがあったのかをとらえる。直後の段落で下北の雪の実際の様子を描いたあと、28～29行目で「……ように書くところだった」と述べている。

問四 直後に、よい旅行とは思えないものとして「観光旅行」が挙げられている。「最大公約数的な型にはめられ」とは、自分の個人的な意思や関心は無視されて、ということである。逆に言えば、自分が主体的に行動したり関心を持ちたりしたものであれば、どんなに小規模でもよい旅行だということである。

問五 問四で見たように、最大公約数的な型にはめられた旅行とは、個人の主体性が無視

39～42行目に「そうやって仕事をするのは人間の心のどこか深いところにある喜びにぴったり合っていて……それをやらすにはいられない」とあるのが見つかると「根本」は「深いところ」なので、「人間の心のどこか深いところにある喜び」を抜き出す。

問八 随筆は、筆者の経験した具体的な事柄と、それについての筆者の感想・意見という構成をとるのが一般的である。この文章では、相撲の土俵の例、少年のころの自分の家の前の通りの例、京都の寺の庭の例を挙げたあとで、芸術と掃除の関係についての感想・意見を述べている。

問九 アが、この文章の主題である。最後の段落は、芸術は、いったん完成されても、そのままにしておいてはまだ真に完成したとはいえない、ということを述べたもの。筆者は「最初の創造」と「再構築の作業」を比べてはいないので、イは不適切。「美しいものを見ることが楽しい」とは述べていないので、ウも不適切。エは筆者の主張と反対の内容である。

P 52

〔活用のある自立語1（動詞）〕

- 1 消す・ア 起き・イ 切っ・ア 食べ・ア つけ・ア いる・ウ 言う・ア 見せ・ア くれ・ウ
- 2 (1) × (2) 行ける (3) × (4) 死ぬる (5) 売れる (6) 話せる
- 3 (1) 五段活用・終止形 (2) 下一段活用・連用形 (3) 力行変格活用・未然形 (4) 上一段活用・連体形 (5) サ行変格活用・命令形 (6) 五段活用・仮定形 (7) 下一段活用・連体形 (8) 下一段活用・連用形 (9) サ行変格活用・未然形

〔解説〕

1 「火を消す」のように「を」を伴うのが他動詞、「火が消える」のように「が」を伴うのが自動詞である。「つけている」「見せてくれた」のように「て」のあとにくる動詞は補助動詞である。

2 可能動詞が作れるのは、五段活用の動詞のみ。活用の種類は、「ナイ」をつけて判断する。

- 3 (1) 書かない：活用語尾がア段なので五段活用。 (2) 覚えぬ：活用語尾がエ段なので下一段活用。 (3) 着ない：活用語尾がイ段なので上一段活用。 (4) 行かない：活用語尾がア段なので五段活用。 (5) 「歩ける」は可能動詞。可能動詞は必ず下一段活用である。 (6) サ行変格活用の未然形には、「しーない」「せーず」の形がある。活用形は、あとに続く言葉で判断するとよい。各活用形には、主に次のような言葉が続く。 (7) 未然形Ⅱない・う・よう 連用形Ⅱた・て・ます 終止形Ⅱ言い切り・と 連体形Ⅱもの・とき・名詞 仮定形Ⅱ言ひ切り 命令形Ⅱ言い切り

された旅行である。それと対照的な筆者の姿勢を表しているのは、最後の二文である。問六 イが、この文章の主題である。雪についての発見、秋田のかまくらでの失敗などを踏まえて述べている。

P 49

〔漢字の読み書き8〕

- ① ようせい ② なま ③ てっかい ④ はんじょう ⑤ ほうかい
⑥ かいぼう ⑦ かんわ ⑧ せば ⑨ はんも ⑩ さくじよ
⑪ 収 ⑫ 善 ⑬ 価値 ⑭ 頂 ⑮ 閉

P 50

〔練習問題2〕

1 問一 ア 問二 土俵をはききよめ 問三 一度鳴り響き、高くそびえた

問四 イ 問五 芸術作品に対し、たえず創造的なくり返しの作業を行う行為

問六 パッハやベートーヴェンの作品が、今でも、毎日地球上のどこかで、誰かの手ひかれていくこと

問七 人間の心のどこにある喜び 問八 私は、芸術 問九 ア

〔解説〕

問一 A 直後に「これから大切な大一番がはじまる前となると」とあるので、「なかでも特に」という意味の「ことに」があてはまる。 B 「指先とか踵のこくかすったあとまで判定できるように」「土俵のまわりをはく」のであるから、順接の接続語があてはまる。

問二 前の部分で述べた具体例を指して、「こういふところ」と言っている。初めに挙げている例は「土俵を、箒ではききよめる」行為である。

問三 直前に「芸術というものは」とあるように、――線①は「芸術」について述べた部分である。「芸術」を「音楽や建築や美術」と言い換えたうえで「芸術」について説明している一文（49～51行目）に着目する。

問四 「掃除」とはどのようなものかを考えればよい。「作業」である。次の一文の「手」も同じ意味を表している。

問五 問三でも見たように、筆者は、「掃除」を芸術の生命を保つものと考えている。――線③より前の部分で「掃除」という言葉が使われている部分を探すと、35～37行目「こうやって誰かが掃除して……そういう意味で、芸術は、たえず創造的なくり返しの手をもった精神で支えられている」とあるのが見つかる。この部分を使って、「行為」となるように言葉を補って解答をまとめる。

問六 直前の「こうやって」は、段落の初めに述べている「パッハやベートーヴェンといった人びとの作品」についての例を指している。

問七 「はききよめる仕事」とは「掃除」の言い換えである。掃除とはどのようなものは、前の段落で述べている。そこから、「人間の精神の労働」にかかわる部分を探すと、

9 説明的文章の読み方・解き方

説明的文章の読解で重要な論理の展開をとらえて、筆者の意見や、意見の理由をつかむための単元。

説明的文章の読解とは、筆者がどんな筋道で説明をしているかという論理の展開をとらえ、その論理の展開の過程での意見や意見の理由をつかんで、筆者の主張(要旨・結論・最も言いたいこと)を理解することである。

説明的文章の読解は、次のポイントに注意する。

① 接続語・指示語の働きに着目する。

② 段落どうしの関係に注目し、文脈をとらえながら読み進める。

P 53

【例題】

- 1 問 (1) 西洋のように空気が乾いておらず、また、水道の技術が発達していなかったこと
(2) 日本人は、水は自然に流れる姿が美しいのであり、人間が造型する対象ではないと考えていること

解説

問 段落の構成の面からもとらえる。第一段落は西洋の噴水についての説明、第二段落は日本の噴水についての説明、第三段落は噴水についての西洋と日本の比較、第四段落は日本人の考え方についての説明。(1)は、西洋では見られたことが日本にはあてはまらないという観点でまとめる。(2)は、「圧縮したりねじまげたり、粘土のように」の例示の部分は省略し、中心となる言葉のみを用いて簡潔に内容をまとめる。

P 54

【練習問題1】

- 1 問一 農山村に暮らす人びと ・都市の人びと 問二 イ 問三 イ
問四 (1) ウ
(2) ・水源林問題の点
・野生生物の保護と生物種の多様性を保障できる森林への関心の点
・快適さのための装置として森林をとらえる点

問五 快適さのための装置としての森や里の風景は、自然と人間とが相互に関係しあうことによって生まれたものであるから。

解説

問一 続く二つの段落の初めに、「そのひとつは」「もうひとつは」とあることに着目する。「農山村に暮らす人びと」は「農山村の人びと」でもよい。

問二 「前者の人びと」は、「都市の人びと」のうち、「子どもころの農山村の暮らしの記

解説

問一 Aの前では科学技術的な対応が不可欠と述べ、あとでは科学技術とは異なるものを重要だと述べている。前後の内容が対立するので、逆接。Bは、前で述べたことと理由を、あとの文で「だからです」と説明している。

問二 「この理由」は、直前の文の内容を指している。抜き出す部分に注意する。「よく考えてみると」は不要。「……重要なのは……であり、また……知識です」と並べて述べていることにも注意する。

問三 直前に「であるため」とあるので、理由を述べた部分は見つけやすい。「複雑な関係の網の目」は、生態系の相互に依存し合うシステムを比喩的に表したもので、この部分は削除してよい。

問四 [2]段落で述べているのは、生態系とは「関係」であるということ。この内容と合う選択肢を選ぶ。

問五 意見を述べたあとに、具体的に詳しい説明をしていることに着目する。「取り組む」という言葉が繰り返されているので、人間にとって……取り組むひとつの研究分野となつていきます」の部分をまとめる。

問六 [1]段落は、環境問題を人文社会系の学問分野から考えるようになってきたということの背景。[4]段落は、文学と環境問題の関係についての筆者の体験。[5]段落は、環境問題を文学や芸術の観点から見ることの意義。

問七 「痛烈な批判的コメント」は筆者の感じたことで、具体的な内容ではない。

問八 aは、[1]・[2]・[3]段落の内容に対応している。自然科学だけでは不十分という内容を押さえる。bは、[1]・[3]・[5]段落の内容に対応している。人文社会系の学問、文学や芸術の役割を押さえる。

P 58

【活用のある自立語2 (形容詞・形容動詞)】

- 1 眠かつ 早く ない 黒い おいしい ない
(1) 未然形 (2) 連用形 (3) 連用形 (4) 連体形 (5) 連用形 (6) 仮定形
(1) はよう (2) 悲しゅう
(1) にぎやかな 急に 穏やかだつ 元気で 活動的な
(1) 連用形 (2) 連用形 (3) 未然形 (4) 連用形 (5) 仮定形
(6) 連体形

解説

1 「食べたくない」の「ない」は補助形容詞、「時間がない」の「ない」は「存在しない」という意味の本来の形容詞。

3 形容詞には、「いざいざ」が続くときに活用語尾の「く」「う」に変化するウ音便がある。語幹の一部も変化するので注意する。

4 「一瞬で」は、「一瞬(名詞)+で(助動詞)」で形容動詞ではない。「活動的な」のように「〇〇的(だ)」「〇〇的」の形のは形容動詞である。

憶をもっている人びと」を指している。「前者」「後者」は指示語の一種で、「前者」は二つあるうちの前に挙げた事柄、「後者」はあとに挙げた事柄を指す。アは第一段落の内容で、「都市の人びと」と「農山村の人びと」に共通すること。ウ・エは、「前者の人びと」について述べられている——線②を含む段落に書かれている内容。イは農山村で暮らした記憶のない「都市の人びと」に関する内容(21〜22行目「野生生物の保護と生物種の多様性を保障できる森林への関心」)である。

問三 Aの前では、農山村での暮らしの記憶をもつ人々が森と人との関係を問題にしていたと述べているが、あとでは、農山村の記憶をもたない人々の関心も高まってくると述べている。前後の内容が反対なので、逆接。Bの前では、「森林を守れ」という声は……高まってきた」と述べ、あとでは、「森林を守れ」という意志は……実現されない」と述べている。これも、前後の内容がすんなりとならないので、逆接。

問四 (1) 直後の段落の「このような動き」は、「森林への関心の高まり」を指している。その高まりの内部にあったのは、「森林を破壊し続けるなら……という予感であった」と説明している。この説明と一致する選択肢を選ぶ。

(2) 「環境維持のための装置としての森林への関心」は、——線③の「森林への関心」を言い換えたもの。21行目の「それは」のあとの「三点」を簡条書きにする。

問五 34行目に「それだけが理由ではない」とあるので、それ以降の文中からもう一つの理由を探す。42行目に「つまり」とあるので、「つまり」のあとに、それまで述べたことがまとめられていることがわかる。42〜44行目の「快適さのための……森の風景だったのである」がもう一つの理由にあたる。

P 55

【漢字の読み書き】

- ① むじゅん ② はつしょう ③ う ④ とどこお ⑤ てつきよ
⑥ さかずき ⑦ ほま ⑧ は ⑨ さくげん ⑩ おこた
⑪ 訪問 ⑫ 巻 ⑬ 呼吸 ⑭ 胸 ⑮ 激

P 56

【練習問題2】

- 1 問一 A カ B ア
問二 環境問題に対処()う歴史的な知識()であるという理由()
問三 地球上のあらゆるものが相互的に依存し合っている
問四 ウ
問五 人間にとって自然環境とは何かを、あらゆる学問分野を総動員して検討していくこと
問六 イ 問七 文学は環境問題には何の役にも立たない
問八 a 自然科学系の分野からの局所的な対応
b 私たちの「自然観」を問い、変えていく

文学的文章の読解で重要な、場面・言動・心情のかわりを読み取るための単元。文学的文章の読解では、場面・言動(会話と行動)・心情の読み取りが中心になる。これは、ばらばらに存在しているのではなく、それぞれ関係し合っている。文学的文章を読むということは、その関係をとらえるということでもある。この人物は、なぜこんな言動をするのか、どんな気持ちでいるのか(行動・発言・心情)をとらえ、その理由を文中の表現から読み取っていく。また、随筆文では、筆者の経験がどのような感想・意見となって表れているかをとらえる。随筆文においても、場面・言動・心情がかわってくる。

P 59

1 問 A 退屈で、少し怖い B 多くのものに興味がなく、楽しい

【例題】

問 A この文章は、迎えに来てくれたじいちゃんと一緒に帰る場面から始まっているが、9～13行目で小学校から家までの道のりを描写し、一人で帰るときの心情を描いている。「退屈だし、ちょっとだけ怖かった」を使い、字数内にまとめる。

B 一人で帰るときの心情を描いたあとで、「けど、じいちゃんと一緒に歩く雨の日は」と初めの場面に戻り、どんなふうに変化するかが描かれている。17～18行目に「観察しなければならぬものは、次から次へと姿を現した」とある。「興味」がわくものが多くあるということである。そしてそれは、「退屈」とは反対の「楽しい」ことである。

P 60

【練習問題1】

1 問一 イ

問二 A 女中さんが繰り返し頼む

B 納得するような口実をつけて

問三 エ 問四 「私」に色紙を書くのを断られたこと

問五 女中さんの真面目さを軽んじて、仕事の自信を失わせるようなことをしてはいけな

いと思っただけから。

【解説】

問一 女中さんは、「勤めてから三日目で、十分なおもてなしができるかどうか、自信がありません」と、正直に自分の状況を伝えている。また、筆者に、「初々しい」「好ましい」といった印象を与えていることから、「真面目」さや「誠実」さが感じられる。

問二 「こうして」は、直接には直前の二つの文を指しているが、どういふふうに味わっているかという具体的な内容は、直後の二つの文に書かれている。これらの内容をまとめる。

問三 直前の「世の中が万事バタ臭くなった」が、戦後の世の中が欧米の考え方や文化に染まったということの意味していることを押さえて考えよう。アは紛らわしいが、文中では述べられていない。

問四 筆者は、俳句を第二義的と低くみなす風潮を批判的に見ているので、「頭のいい」は評価しているわけではなく、むしろ、反発して言っているのである。つまり、当てこすりの言い方で、「皮肉」である。

問五 続く段落に「おかしさの依ってきたところ(原因)は、案外、俳句の読み方にあるのではない」とある。では、おかしい読み方とはどんな読み方かというところ、37～40行目の段落にまとめられている。「散文の読み、外国語の読みを流用して」読む、「目と頭だけでわかろうとする」読み方は「おかしい」というのである。

問六 「俳句の正しい読み方」とはどのような読み方なのかは、最後の段落に述べられている。「頭で読む」のではなく「心で読む」読み方は、「舌頭に千転させて……心で受けとめる」読み方である。

P 64

【ことわざ】

1 (1) 氏 (2) たすき (3) 鳥 (4) わら (5) さび (6) こと

(7) のれん (8) うど (9) もち (10) 友

2 (1) イ (2) ウ (3) カ (4) キ

3 (例) 弟はいくら注意しても朝寝坊が直らないので、母はぬかに釘だとあきれている。

【解説】

1 それぞれ、意味を辞書で調べておくようにしよう。

2 (1)は「泣きつ面に蜂」、(3)は「宝の持ち腐れ」ということわざもあてはまる。(4)「敵は本能寺にあり」は、「本当の目的は別のところにある」という意味。明智光秀が、敵を討つと見せかけて主君の織田信長を襲撃したことに基づくことわざ。

問二 Aには、「女中さんは、ぜひに、と繰り返して言う」(28～29行目)の部分をあてはめればよい。「繰り返し頼む」という内容になっていれればよい。Bは、34～35行目に「下まいとは決して思わぬが、それほど下手でもないという気持ちはある」とあるので、「下手なので、恥しい」というのは本心ではなく、断るための「口実」であると判断できるとある。そのように言えば、女中さんが納得してあきらめてくれるのではないかと考えたのだ。「気が重くなった」というのは、断るための言い訳をするのをわずらわしいと感じたからである。

問三 問一でも確認したように、この女中さんは、接客の仕事を始めたばかりで、世慣れた(世間のやり方に慣れていない)対応ができていない。客が「字が下手だ」と言っても、「そんなことはないでしょう」と否定するのが普通である。ところが、真に受けて「下手でも結構ですから」と言ったので、素人のようだと感じたのである。

問四 「その旨」が直接指しているのは「私が頑強に断って書かなかつた」の部分である。この表現を用いて、「何を」を補い、さらに「女中さん」の立場から「断られた」と受け身の言い方に直して解答をまとめる。

問五 筆者の心情の変化が描写されている部分に着目する。37行目の「本当に驚くほど下手なんだ」では、まだ断ろうと思っている。しかし、女中さんはそれでもなおおきらず、41行目で「私は、女中さんが愛らしくなった」と、変化のきっかけを述べ、続けて「彼女の真面目さを、決して軽んじてはいけません」「勤めて間もない彼女は、仕事に自信を失うかも知れない」と女中さんを思いやる気持ちを述べている。

P 61

【漢字の読み書き10】

① あわ ② かっしょく ③ いこ ④ にわとり ⑤ たく

⑥ しつそう ⑦ じゅよう ⑧ かくじゅう ⑨ じんそく ⑩ ついずい

⑪ 利己的 ⑫ 骨折 ⑬ 政策 ⑭ 容姿 ⑮ 若者

P 62

【練習問題2】

1 問一 ア

問二 (静かなところで) ゆったりとした気持ちで、口ずさんで、自分の手で書き、(味わうこと)

問三 イ 問四 ア

問五 俳句を、散文や外国語の読みを流用して、目と頭だけでわかろうとした点

問六 舌頭に千転させて、おのずから生じるものを心で受けとめるような、心で読む読み方

【解説】

問一 「三度、四度とくりかえしても、必ずしもいいとは限らない」とあることに着目。さらに、第二段落に「目で読んでいただけでは本ものではない。……やはり、これも、

詩の表現技法を押さえて、的確に鑑賞するための単元。
詩の読解では、まず比喩などの表現技法を押さえ、その表現が表すものをとらえることがポイントになる。また、印象が強められている部分に着目し、作者が描こうとしている内容をつかむことも重要である。そこから詩を通して作者が表現しようとしていること（＝主題）をつかもう。

P 65

〔例題〕

1 問一 エ 問二 ア・ウ

解説

問一 現代の言葉を用いているので口語詩。一行の音数や行数に一定の決まりがないので自由詩。現代の詩は、ほとんどが口語自由詩である。詩の分類には、用語・形式のほかに内容上の分類もある。

- ① 叙情詩：作者の感情・心情を中心に表現した詩。
 - ② 叙景詩：風景の描写を中心に表現した詩。
 - ③ 叙事詩：歴史上のできごとなどを表現した詩。
- 現代の詩は、ほとんどが叙情詩である。つまり、口語自由詩で叙情詩がほとんどということになる。
- 問二 対句法は、16～17行目の「ちいさな杉林／ちいさな檜林」の部分。直喩は、12行目の「短い命の申し送りのように。」の部分。

P 66

〔練習問題1〕

1 問一 エ 問二 イ 問三 土から生えた筆

解説

問一 用語は現代の口語、形式は一行の音数や行数に一定の決まりがない自由詩。
問二 擬人法は「風が土筆に聞いています」「土筆が風に答えています」などの表現から、反復法は「お習字が好き?」「や、はい、いいえ」などの繰り返しから、体言止めは「土から生えた筆」などの表現から、それぞれ用いられていることがわかる。
問三 「つくし」の漢字表記「土筆」が詩の表現のきっかけになっていることを押さえる。「土」と「筆」からそのまま連想されるイメージである。
問四 解説文にあるように、「筆」の連想から、墨をふくませることを「光をたっぷりふくませて」と表現し、墨を紙になすることを「光を春になすって」と表現している。つまり、

問三 子供が過ごす豊かでゆるやかな一日を、うらやましく思う気持ち

解説

問一 昼の情景を歌った第一連と、夜に一日の行動を振り返っている第三連とをつなぐ第二連が、一行の短い言葉で表現されていることに注意する。一日があつという間に過ぎたことへの驚きとも嘆きとも感じられる。
問二 第四連は、子供の一日を髪の毛の匂いから想像している内容が表現されている。「すこし甘い汗の匂い」という表現から、子供が夢中で遊んだ様子が想像できる。その子供の様子に、春に木々が若葉を出す様子を重ねているのである。共通するものは、「みずみずしい生命力」である。
問三 作者の一日が表現されている第三連までと、それとは対照的な子供の一日が表現されている第四連とを比較して考える。「短い」「きょう一日／ほくはいつたい何をした?」という作者の一日と比較して、「深く」「長い」子供の一日をうらやましく感じているのである。

P 70

〔故事成語〕

1 イ・オ

2 (1) 画竜 (2) 漁夫(漁父) (3) 威 (4) 陣 (5) 午後 (6) 虎子(虎児)

3 読みだぞく 意味よけいなもの。

解説

1 イ・オの正しい意味は次のとおり。
竜頭蛇尾＝頭は竜で、尾は蛇という意味で、初めは勢いがよいが、終わりはまったく勢いがなくなること。
隗より始めよ＝事を始めるには手近なことから始めよ、または、言い出した人からまず始めよという意味。賢臣(有能な部下)を集める方法を問われた「隗」という人物が、まず、自分のような大したことのない人物を優遇すれば、自分より優れた人物が集まって来るだろうと答えた故事から。
2 (1) 「画竜」の読みは「がりよう」(「がりゅう」とも)。また、「点睛」の「睛」は「睛」ではないので注意する。「睛」は「ひとみ」の意味。
3 「蛇足」は、「最後の一言は蛇足だった。」「最後の短い段落は単なる自慢話で、蛇足だから削除する。」のように用いられる。

まり、土筆が太陽の光を浴び、春風にそよんでいる情景が想像できる。

2

問一 イ

問二 ウ

(2) あちらこちらで、光がキラキラとまぶしく光ったり弱まったりしている様子

問三 ア

解説

問一 「キララ子」が人間でないことは読み取れるから、用いられているのは擬人法である。
問二 (1) 「キララ子」という表現そのものからほわかるが、第二連の「自分の額にもキララ子は映り。」から、光であることが判断できる。
(2) 光が雪の上で「跳びあがりたりもぐつたり」する様子を想像する。鬼ごっこだから「跳びあがる」は現れて目に入ってくる(＝まぶしい)様子、「もぐつたり」は目の前から消えてしまう(＝弱まる)様子と考えればよい。
問三 詩の題名の「雪の朝」は、問二でとらえた情景から、雪の降っている暗い朝ではなく、雪が降りやんで、すっかり晴れ上がった朝のことである。空が「まへに乗りだす」「天の天まで見え透く」とは、青空が目前に迫って見えてきているということである。

P 67

〔漢字の読み書き1〕

- ① ぜせい ② お ③ うなが ④ おお ⑤ とほ ⑥ けいよう
- ⑦ しゅりよう ⑧ とつ ⑨ いちぐう ⑩ こんだて
- ⑪ 就任 ⑫ 宣言 ⑬ 頂上 ⑭ 背後 ⑮ 最善

P 68

〔練習問題2〕

1 問一 エ 問二 自己主張 問三 エ 問四 ウ

解説

問一 現代の言葉で書かれているので、口語詩。一行の音数や行数に決まりがないので、自由詩。
問二 第一連では、「人もまた、一本の樹ではなからうか。」と、人を樹になぞらえて表現している。「樹の自己主張が枝を張り出すように／人の自己主張も見えない枝を四方に張り出す。」という内容。
問三 前の連の「いらだつて身をよじり／互いに傷つき折られたりもする」ことを、「仕方ないことだ」と言っている。この詩が人を樹にたとえて表現していることを押さえて考える。
問四 枝を張り出すことが自己主張をすることであることを押さえ、その対比から考える。

2 問一 もう夜。 問二 ア

古文の特徴やかなづかいなどの古文独特の決まりを押さえて、古文を正確に読むための単元。
古文は、まず、読み慣れることが重要である。声に出して読み、古文のリズムに慣れてくれば、言葉の切れ目、意味の切れ目などがつかめるようになる。古文は、助詞や主語などの省略が多いので、基本的な古文の意味を覚えるとともに、前後の文脈から文意をとらえる読み方を身につけることが必要である。

P 77

〔例題〕

1 問一 をかしげなる 問二 ② かお ③ おどりくる ④ ちいさき

〔現代語訳〕

かわいらしいもの 瓜に描いた幼児の顔。雀の子が、ねずみの鳴き声をまねてちゅうちゅうと呼ぶと、おどるようになって来て様子。二、三歳ぐらいの幼児が急いで指でつる途中に、とても小さい塵があつたのを、目ざとく見つけて、とてもかわいらしい指でつまんで大人などに見せているのは、たいそうかわいらしい。頭をおかっぱ髪にしている幼児が、目のところまで髪がおおいかぶさっているのを掻きわけようともしないで、頭をかたむけてものなどを見ているのかわいらしい。

〔解説〕

問一 「をかし」には、「風情がある。美しい。かわいらしい」の意味がある。
問二 ③ 助詞以外の「を」は「お」に直す。

P 78

〔練習問題1〕

1 問一 イ 問二 あやしくおもっていたりけるほどに 問三 ア

〔現代語訳〕

今は昔、京に住む雑色男の妻が、夕方の暗くなってきたころに、大切な用事があつて、大通りに出かけたが、かなり長い時間、帰って来なかつたので、夫は、「どうしてなかなか帰って来ないだろう」と不審に思っていたところに、妻が入って来た。それからしばらくして、また同じ顔で姿や形がまったく違つたところのない妻が入って来た。

夫はこれを見て、びっくりしてしまつた。「とにかく一人は狐などだろう」と思つたけれども、どちらが本物の妻かわからないので、いろいろ考えてみたが、「あとで入つて来た妻がきつと狐だろう」と思つて、男は長い刀を抜いて、あとで入つて来た妻に走りよつて切ろうとすると、その妻は、「これはどうしたことです。私にどうしてこんなふうにするので

- ① えつらんしつ ② がいりやく ③ いつわ ④ あお ⑤ おろ
- ⑥ かえり ⑦ こくめい ⑧ せいしゆく ⑨ じゅんかん ⑩ すす
- ⑪ 訪 ⑫ 幕 ⑬ 乱雑 ⑭ 裏表 ⑮ 拡大

P 80

〔練習問題2〕

1 問一 榎木僧正・きりくひの僧正・堀池僧正 問二 イ 問三 ぞ 問四 イ

問五 ①

問六 あだ名がいやだから榎の木を切つたのに、また別のあだ名を付けられたから。
問七 切り株を掘り出してできた跡 問八 ア

〔現代語訳〕

公世の二位の兄弟で、良覚僧正と申し上げていた人は、非常に怒りっぽい人であつた。住居のそばに、大きな榎の木があつたので、人々は「榎の木僧正」と呼んでいた。この名はよろしくないといつて、その木をお伐りになつてしまつた。その根が残つていたので、「きりくひの僧正」と呼んだ。ますます怒つて、切り株を掘つて捨てたところ、その跡が大きな堀になつたので、「堀池の僧正」と呼んだ。

〔解説〕

問一 それぞれのあだ名のあとに、「とぞ言ひける」「と言ひけり」とあることに着目。言つたのは「人」である。

問二 「聞え」は「聞ゆ」の未然形。ここでは、「世の人が、その方の名を呼ぶ」の謙譲語。

問三 係り結びが用いられている。この「ぞ」は係助詞で、意味を強める働きをしている。

問四 「然るべからず」は「然り（＝そうである）＋べからず（＝あつてはならない）」で、「そうであつてはならない＝よろしくない」の意味になる。

問五 あだ名を付けられて「よろしくない」と思っている良覚僧正である。

問六 「いよいよ」は「ますます」の意味。あだ名の原因を取り除いたのに、そのことで再びあだ名を付けられたことで、ますます腹を立てている。

問七 直前の「きりくひを掘り捨てたりければ」を現代語でまとめればよい。

問八 あだ名が気に入らないといつては、木を伐つてしまつたり、切り株を掘り出してしまつたりするような人物である。

2

問一 ウ 問二 心あらん人 問三 財産を多く持つこと（利益に惑わされること）
問四 イ 問五 イ 問六 むやみに高い地位を望むこと 問七 ア

〔現代語訳〕

名誉と利益に追い立てられて、心を落ち着ける暇もなく、一生苦しむのは愚かなことである。

財産が多ければ、身を守るのがおろそかだ。害を受け、苦勞を招く媒介となるものである。死後には、金を積み上げて北斗七星を支えるほどであっても、子孫のためにはわずらわしいはずである。愚かな人の目を喜ばせるような楽しみでは、やはりかかない。大き

すか」といつて泣くので、今度は前に入つて来た妻を切ろうとして走りよると、その妻もまた手をすり合わせて激しく泣いて取り乱す。

〔解説〕

問一 夫が「など遅くは来るならむ」と思つた理由を述べた部分であることもあわせて考へる。

問二 「ひ」と「あ」を直す。入試でも、二か所を直す問題が出ることもある。注意しよう。

問三 「妻入り来たり」が繰り返されていることにも着目する。

問四 古文では、このような形で指示語が使われることが多い。「かく」は、前の「走りか

かりて切らむとす」を指している。

問五 ——線部を含む部分は「それもまた……泣きまどふ」となっている。「後に入り来た

りつる妻」、「前に入り来たりつる妻」と並べていることにも着目して、「泣きまどふ」

の主語が「前に入り来たりつる妻」であることをとらえる。

2

問一 ア 問二 ついにはあらわれなまし 問三 思量りもなかりける男

問四 妻を二人ともしぼりつけておくべきだつた。

〔現代語訳〕

それで、男はどうしたらいいかわからなくて何やかやと騒いでいるうちに、やはり前に入つて来た妻があやしいように思われたので、それを捕らえていたところ、その妻がひどくくさい尿をさつとひっかけたので、夫はくささにたえられずに手をゆるめたすきに、その妻はたちまち狐になつて、戸の開いていたところから大通りに走り出て、こうこうと鳴いて逃げ去つてしまつた。その時に、男はしまつたと思つてくやしがつたけれども、どうもしかたがない。

このことを考えると、思慮のない男だつたのだろう。少しの間考えて、二人の妻をつかまえてしぼりつけておいたら、最後には正体を現しただろうに。たいへん残念なことに逃がしてしまつた。近所の人々も集まつて来て見て大騒ぎした。狐もむだなことをしたものだ。命からがら逃げつた。妻が大通りにいたのを見て、狐はその妻に化けてしまつたのである。

だから、このようなことあつたときには、心を静めてよく考えてみることである。かろうじて本物の妻を殺さなかつたことだけは幸いだった、と人々は言つたものだ、と語り伝えたとかいふことだ。

〔解説〕

問一 「前」に入り来たりつる妻の行動は、人間のものとは思えない。

問二 「つひには」の「は」は助詞なので、「わ」には直さない。

問三・四 最後の二つの段落は、語つてきた話についての作者の感想を述べたもの。説話

では、このように最後に作者の感想が述べられることが多い。

P 79

〔漢字の読み書き13〕

な車、肥えた馬、黄金や宝石の飾りも、道理をわきまえた人は、ますます、愚かなことだと見るだろう。金は山に棄て、玉は淵に投げてしまうのがよい。利益に惑わされるのは、きわめて愚かな人である。
朽ちてしまわない名声を長く世に残すことこそが、望ましいことだろう。（しかし）位が高く、高貴な人だからといつて、すぐれた人だと言えるだろうか、いや言えない。愚かで未熟な人でも、名門の家に生まれ、よい時勢にめぐりあえば、高い位に昇り、ぜいたくをきわめることもある。すぐれた賢人・聖人でも、自ら低い位にとどまつて、よい時勢にめぐりあふことなく一生を終えてしまう人も、また多い。むやみに高い地位を望むのも、次に愚かなことである。

〔解説〕

問一 直前の「使はれて（＝追い立てられて）」とつながりのうえで合致するものを選ぶ。

問二 「心あらん人」は「愚かなりとぞ見る」という文脈をとらえる。

問三 初めの文に「名利に使はれて……愚かなれ」とある。「名誉と利益」について述べる

と前置きして、Aの段落では「利益」について述べている。「財多ければ……」とある

ことに着目。最後に「利に惑ふは、すぐれて愚かなる人なり」とあるので、この内容

でも正解。

問四 問一でとらえたように、「心を落ち着ける暇もない」とは、わずらわしいからである。

問五 「時に逢へば」「時に逢はずして」と比較していることから考へる。

問六 Bの段落では「名誉」について述べている。段落の最後に、「偏に高き官・位を望む

も、次に愚かなり」とある。利を求めるのが最も愚かで、次が名誉を望むことだとい

うのである。

問七 Bの段落の初めに、「埋もれぬ名を長き世に残さんこそ、あらまほしかるべけれ」と

あることに着目。なかなか名を残すことができないから、こう言っているのである。

高い地位になつただけでは、すぐれているとはいえず、名を残せないのである。

〔慣用句1〕

1 (1) 口 (2) 耳 (3) 舌 (4) 腰 (5) 肩 (6) 味 (7) 油 (8) 鳥

(9) 棒 (10) 紙

2 (1) オ (2) ア (3) エ (4) イ (5) ウ

〔解説〕

1 (4) 「腰が低い」は、「他人に対して丁寧でいばらない。態度が控えめである」の意味。

(8) 「とりつく島もない」は、「つっけんどんで、どこにすがつてよいかわからない様子」。

(9) 「やぶから棒」は、突然、物事を行うこと。

(10) 「折り紙つき」は、確かであると保証できること。

2 (2) 「あるファンタジー小説が売れたので、似たような小説が雨後の竹の子のように出

版された。」のように用いられる。